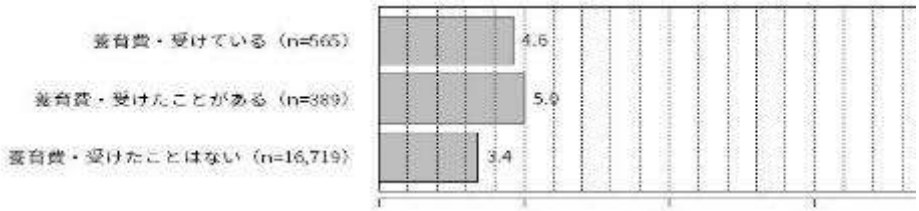
養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

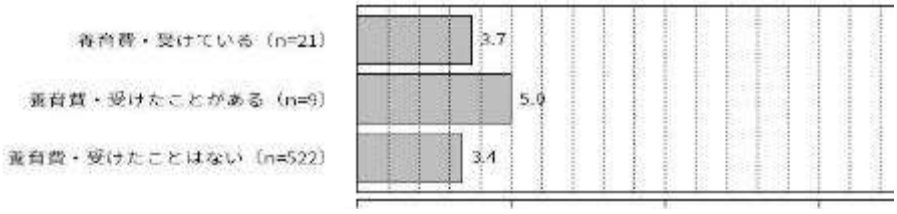
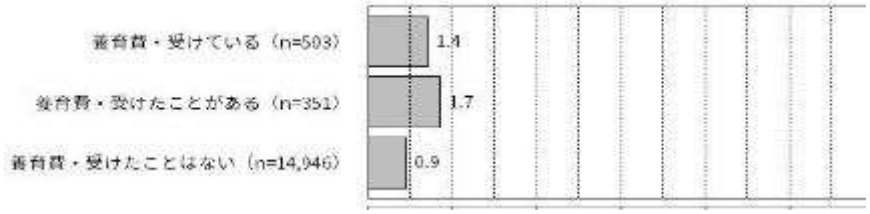


図 153. 養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている・受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均はそれぞれ 3.7 個、5.0 個である。

養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 13）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

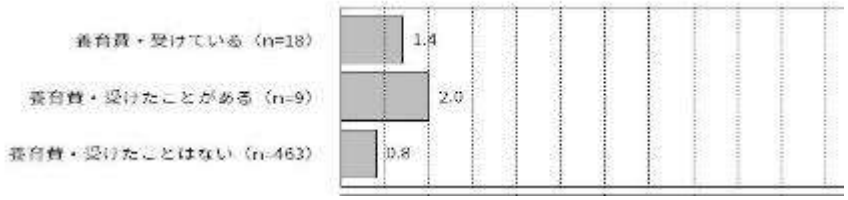
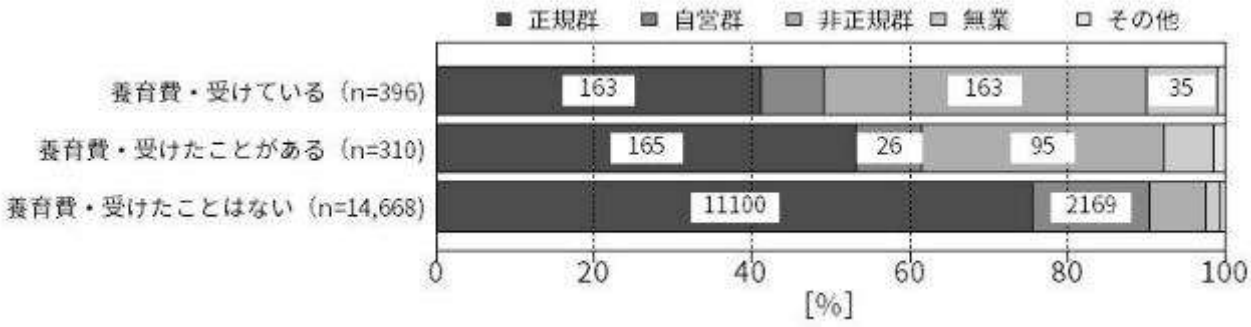


図 154. 養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている世帯が少数であるため傾向を述べることはできない。

養育費の受給別に見た、就労状況（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

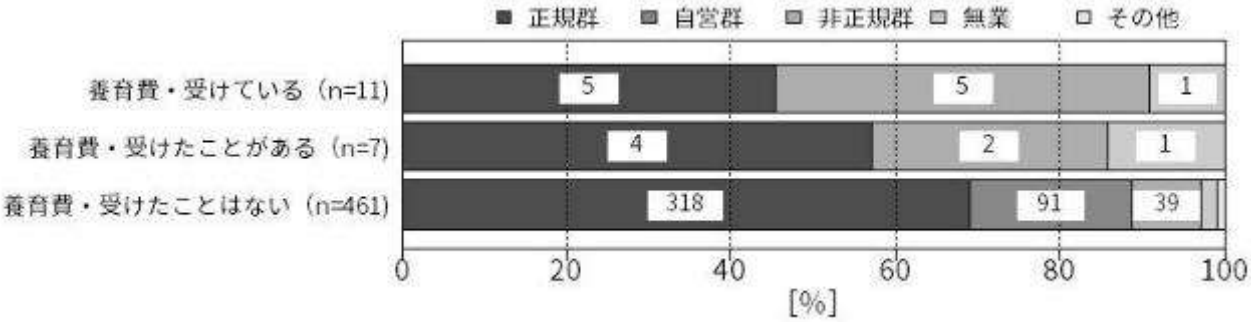
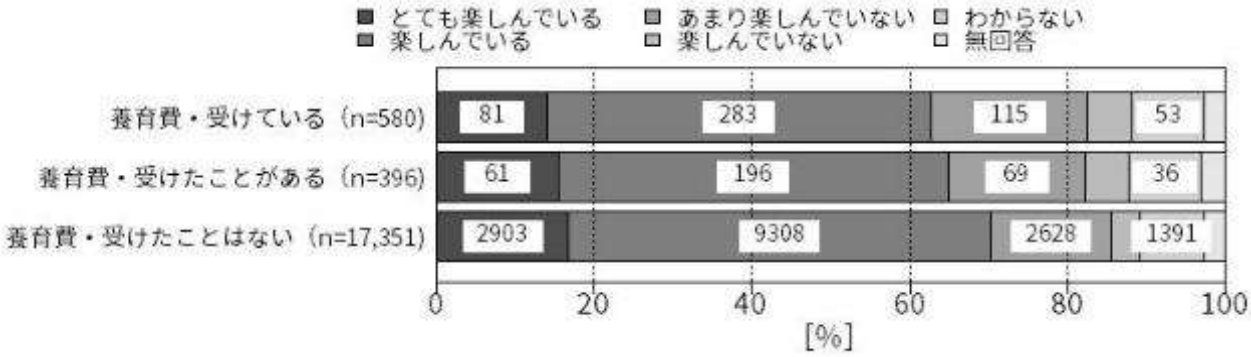


図 155. 養育費の受給別に見た、就労状況

養育費を受けている世帯が少数であるため傾向を述べることはできない。

養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

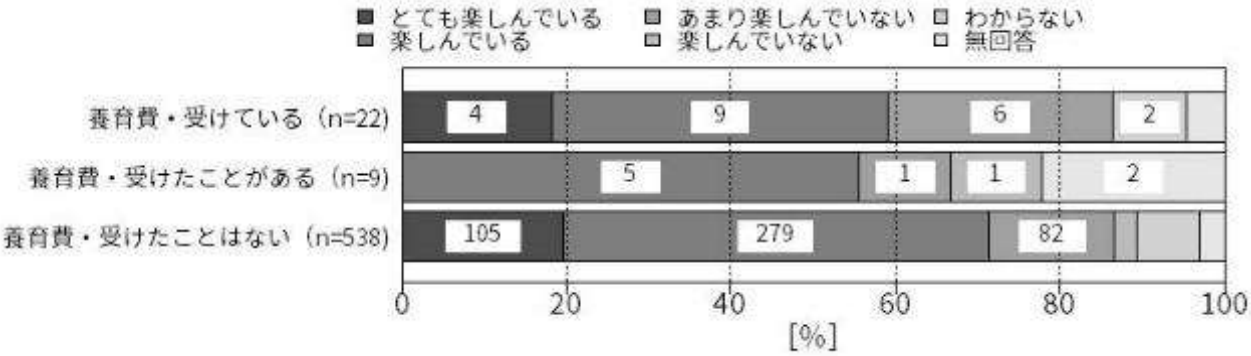
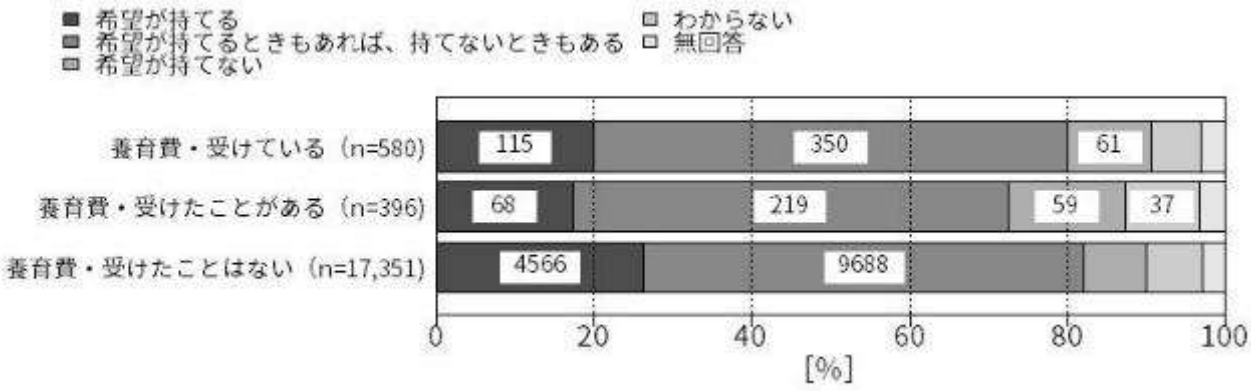


図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

養育費を受けている世帯では、「楽しんでいない」が該当なしであるのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 11.1%、養育を受けたことはない世帯では 2.8%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

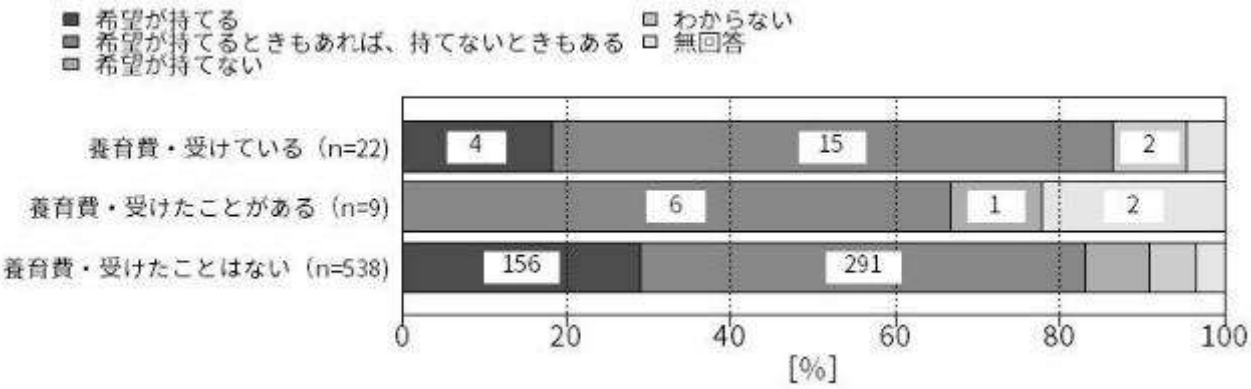
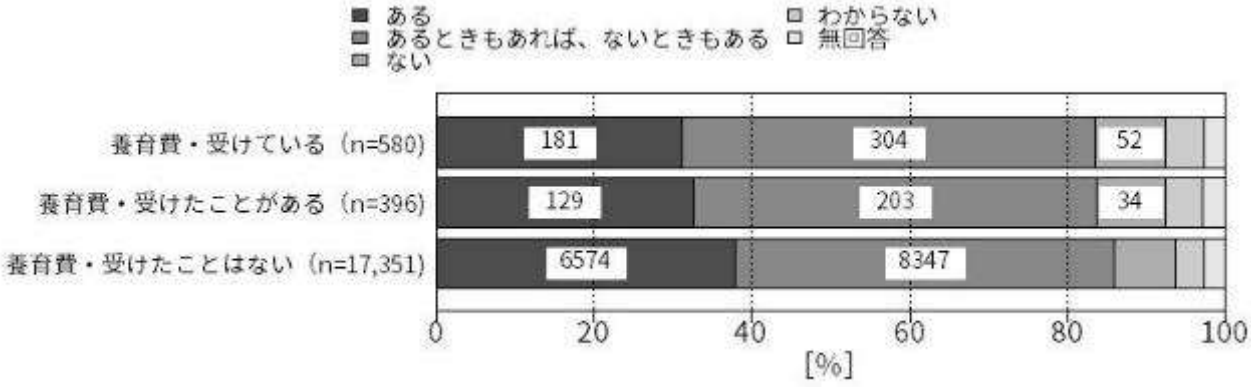


図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

養育費を受けている世帯では、「希望が持てない」が該当なしであるのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 11.1%、養育費を受けたことはない世帯では 7.8%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

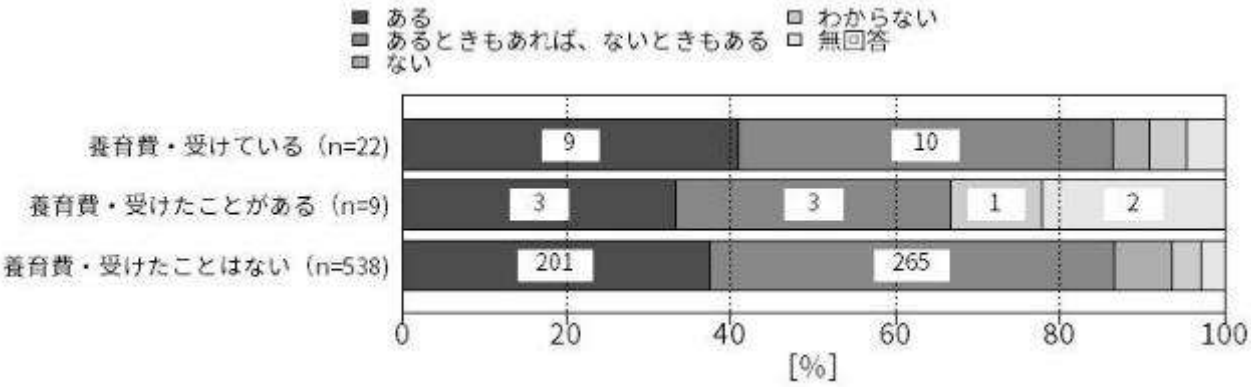
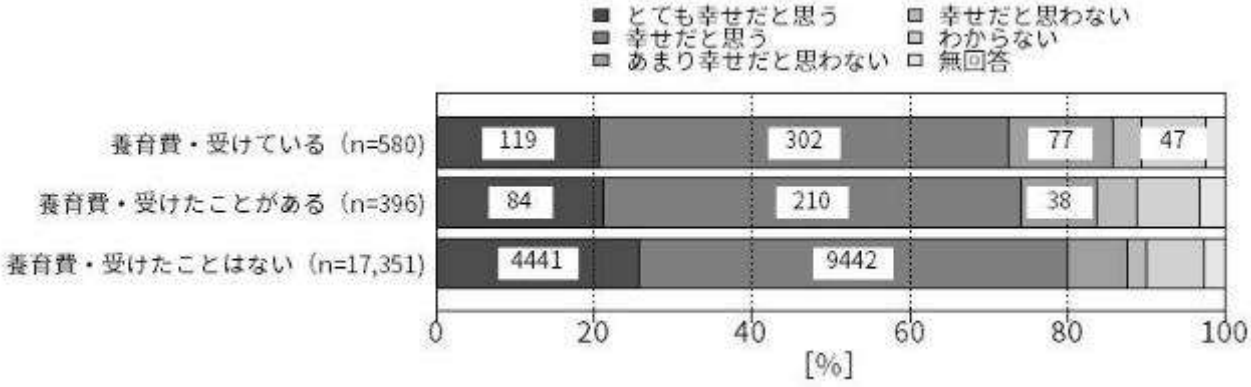


図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

養育費を受けている世帯では、「ない」が 4.5%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では該当なし、養育費を受けたことはない世帯では 7.1%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

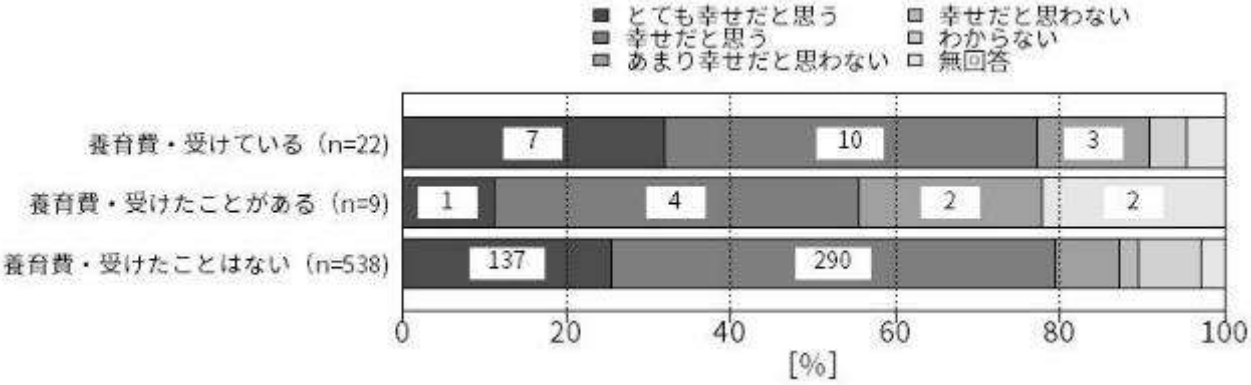
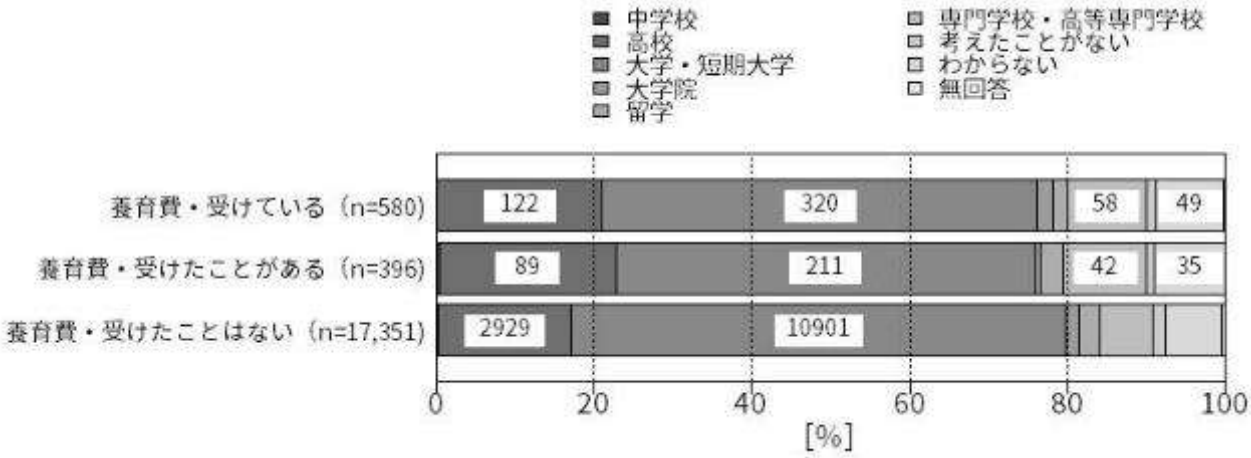


図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

養育費を受けている世帯では、「幸せだと思わない」が該当なしであるのに対し、養育費を受けたことがある世帯では該当なし、養育費を受けたことはない世帯では 2.4%であった。

養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

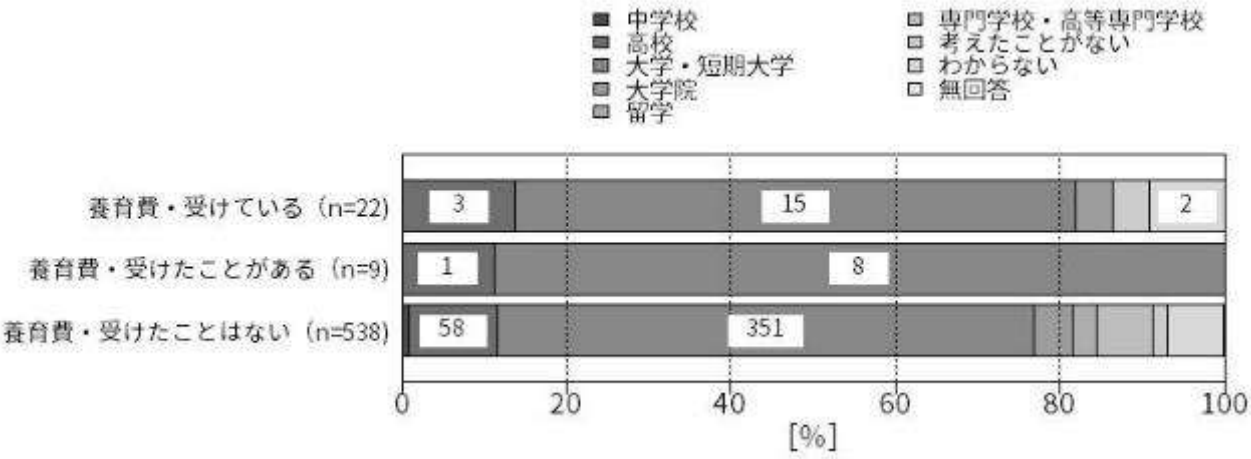
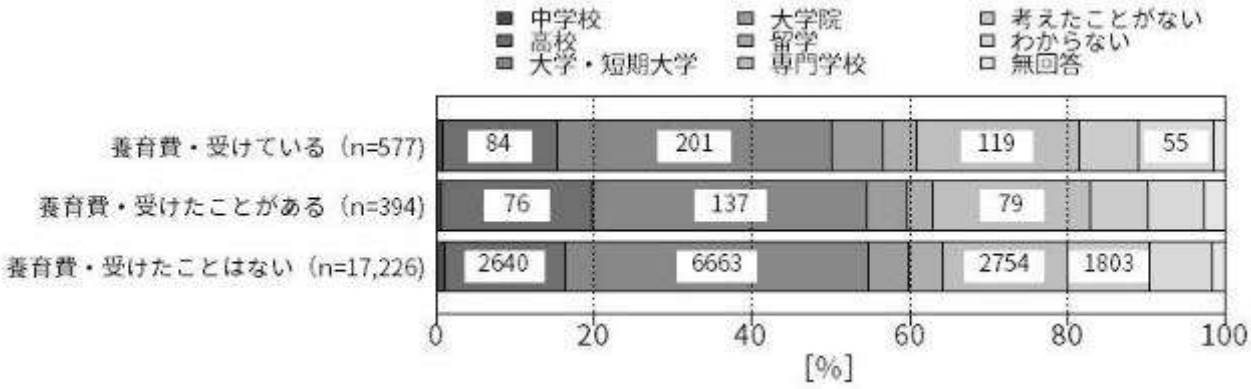


図 160．養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 68.2%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 88.9%、養育費を受けたことはない世帯では 65.2%であった。

養育費の受給別に見た、希望する進学先（保護者票　問 30(3)⑨ × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

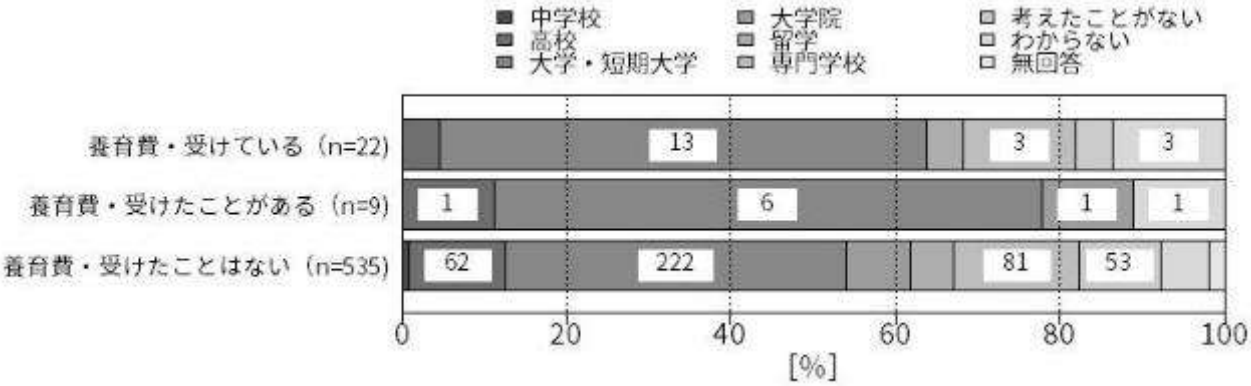
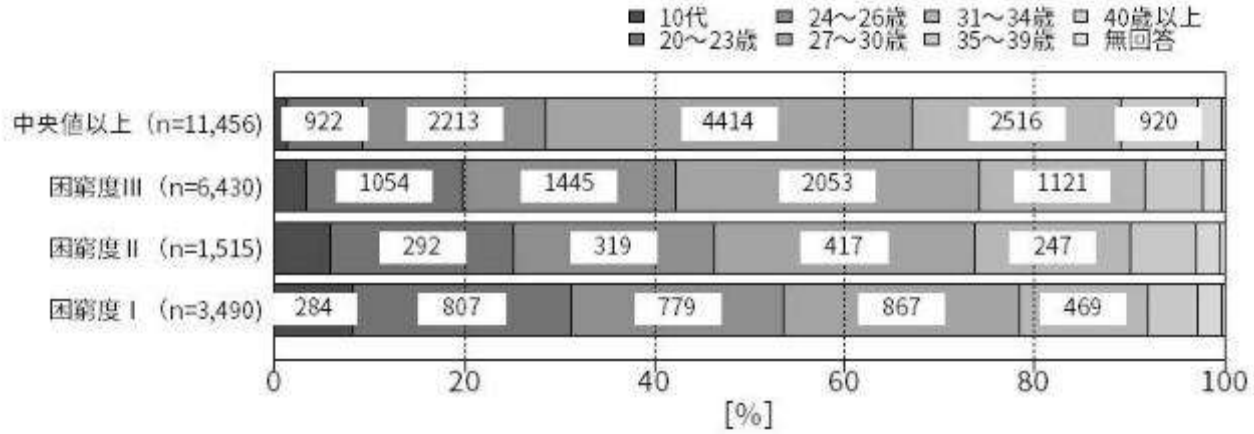


図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 59.1%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 66.7%、養育を受けたことはない世帯では 41.5%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票　問 22）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

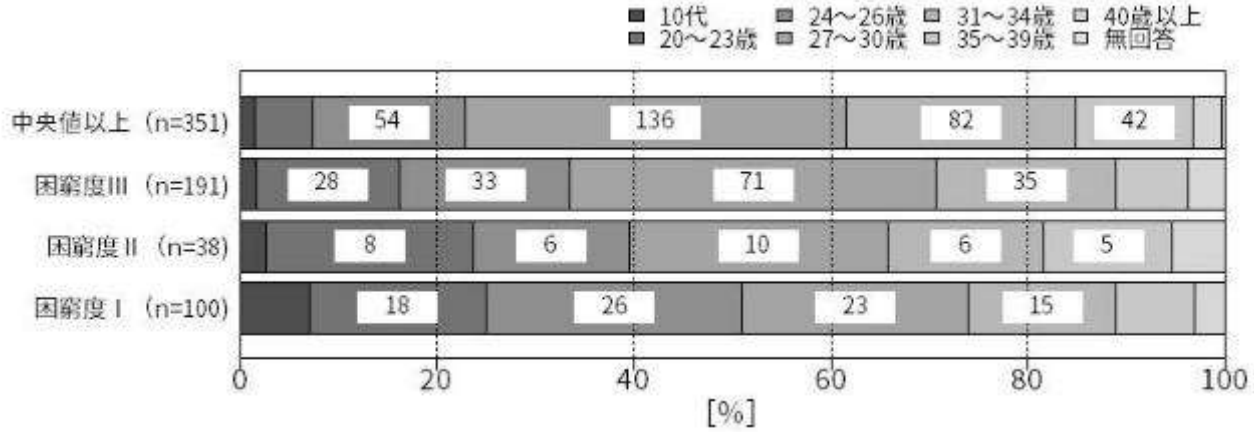
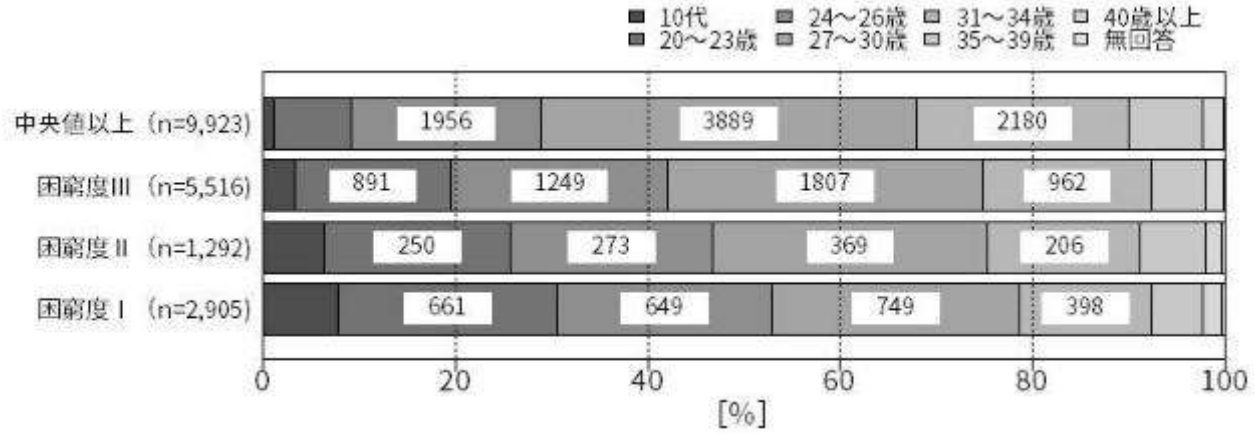


図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 7.0%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票　問 22）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

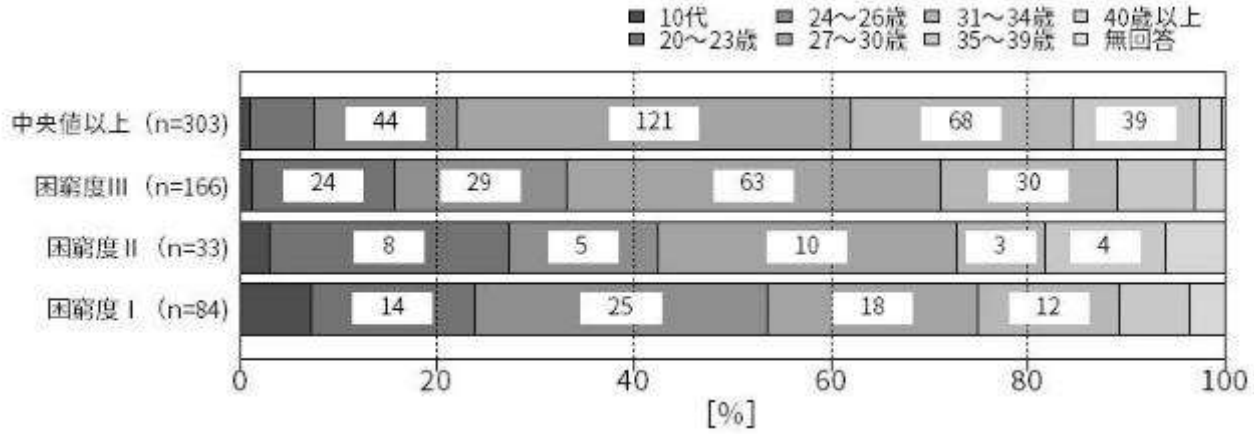
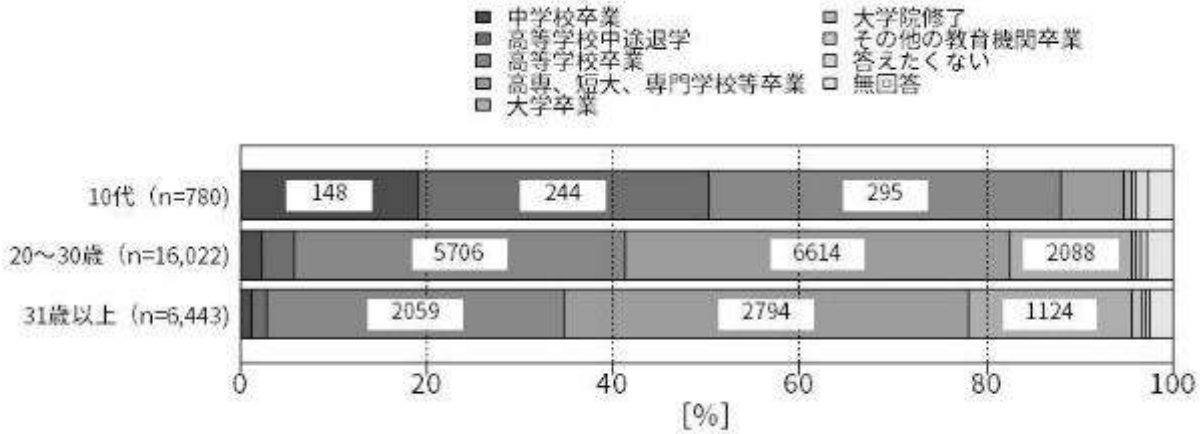


図 163.　困窮度別に見た、初めて親となった年齢
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 7.1%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴（保護者票　問 22 × 保護者票　問 8）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

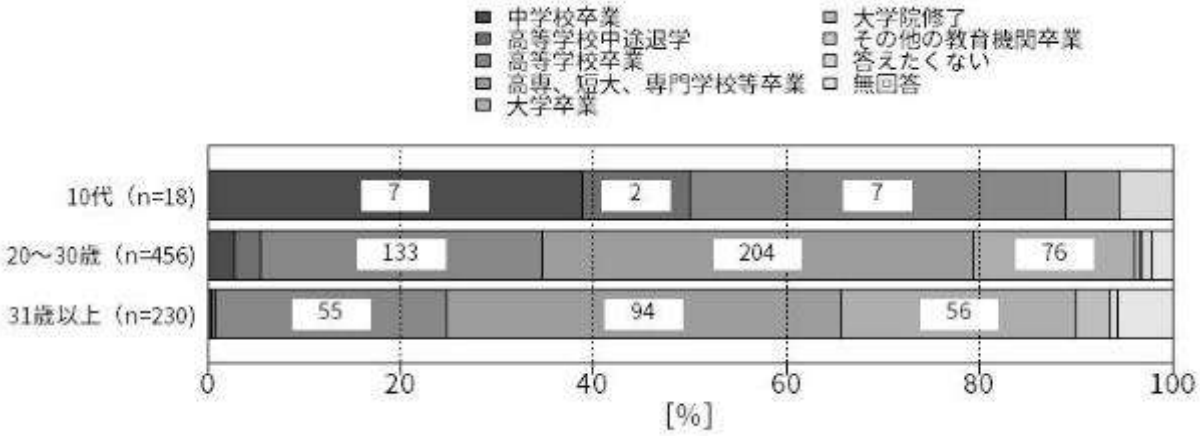


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴
※母親が回答者の場合に限定

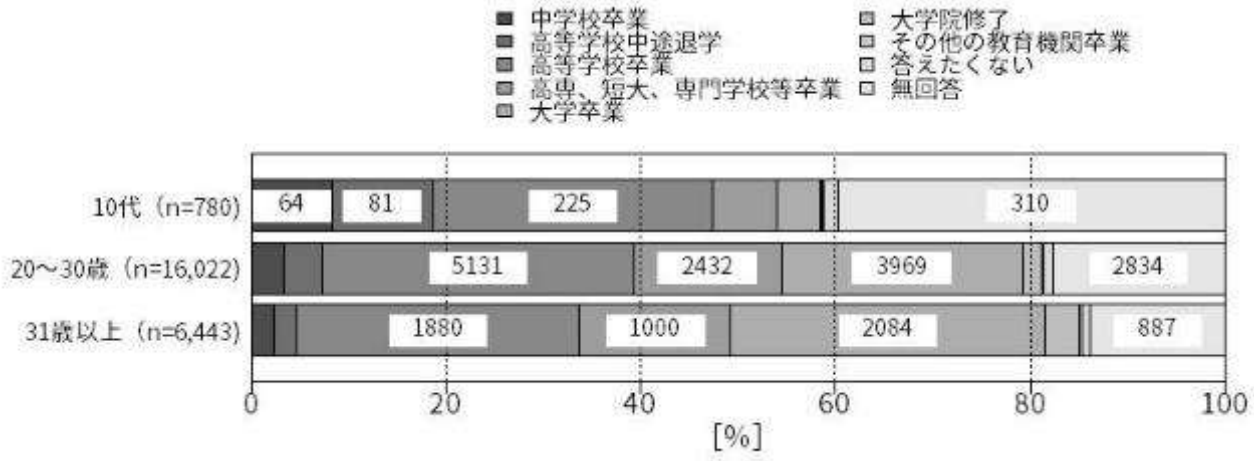
「初めて親となった年齢」を基準に、10 代で初めて親となった 10 代群、平均出産年齢以下の年齢ではじめて親となった平均以下群（20～30 歳）、平均出産年齢以上の年齢ではじめて親となった平均以上群（31 歳以上）を設けた（平均出産年齢については下記 URL を参照）。母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」と答えた割合は 38.9%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 11.1%であった。

平均出産年齢：

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepape

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴（保護者票　問 22 × 保護者票　問 8）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

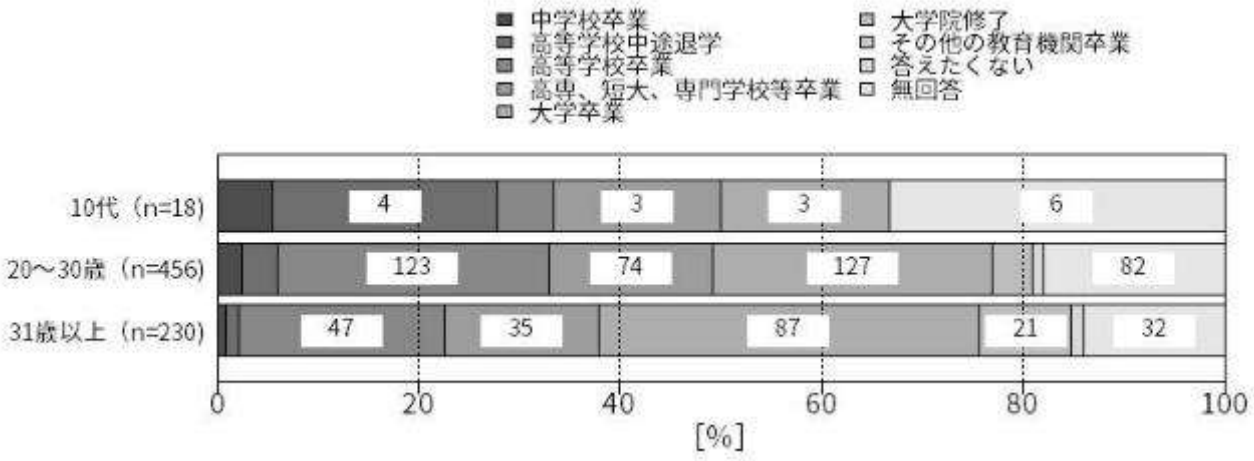
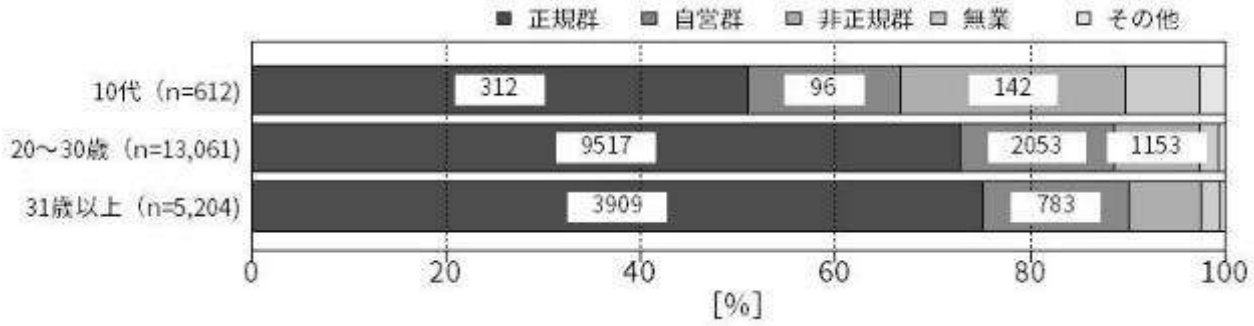


図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」と答えた割合は 5.6%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 22.2%であった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票　問 22 × 保護者票　就労状況）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

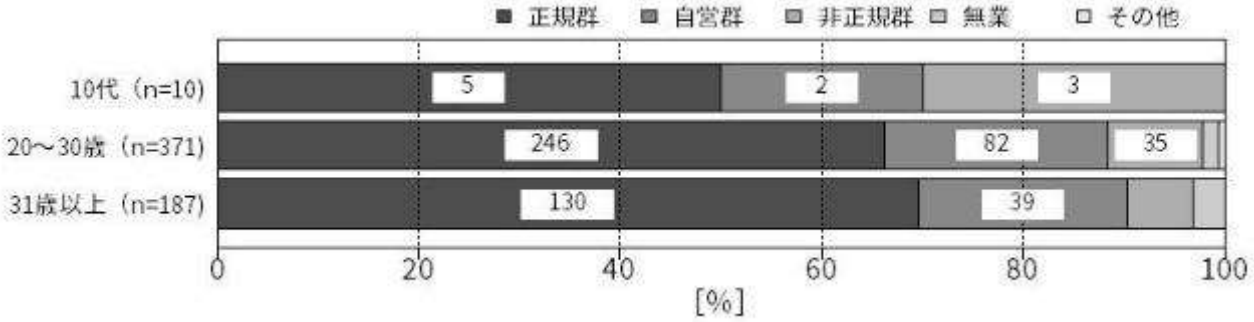
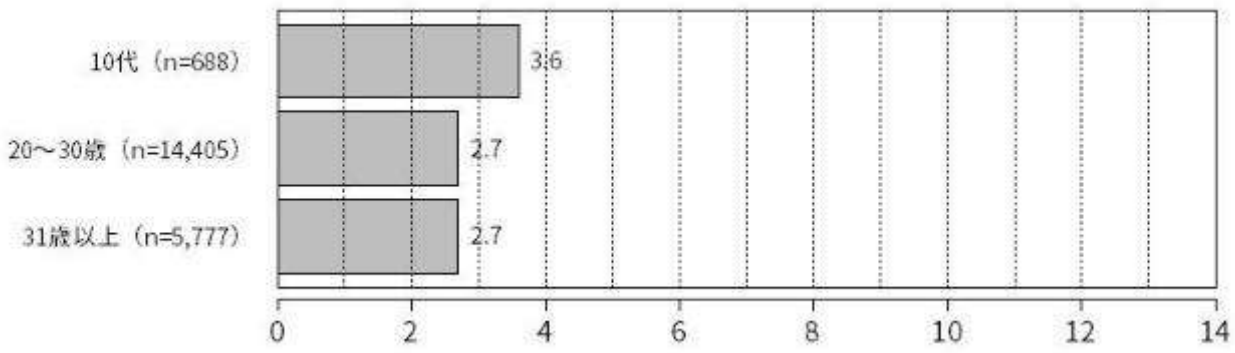


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10 代群は「正規群」が 50.0%、「非正規群」の割合が 30.0%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 22 × 保護者票　問 26）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

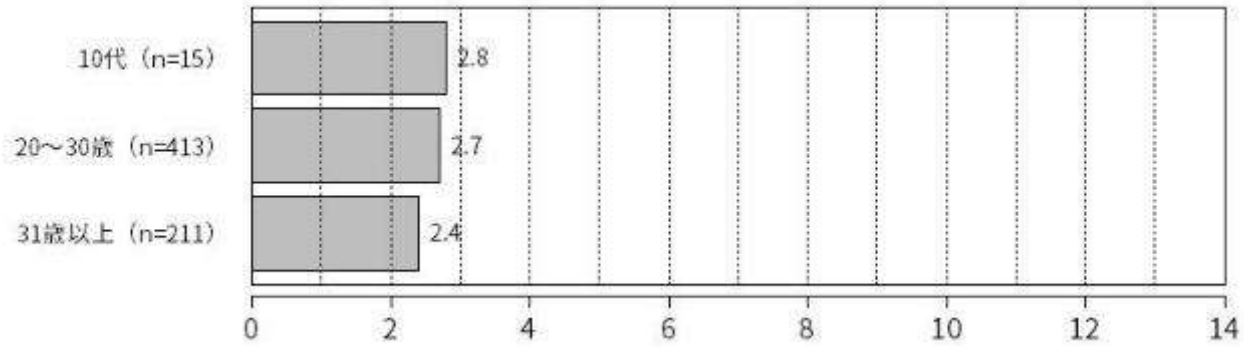
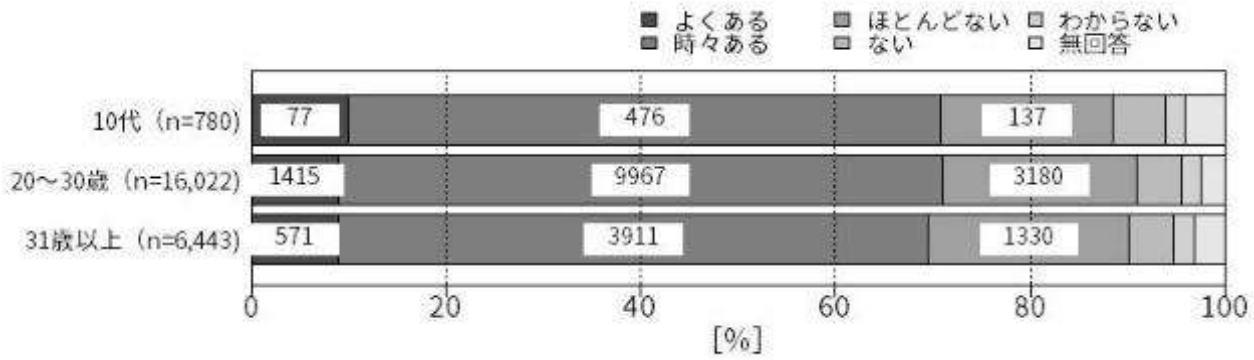


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10 代群は 2.8 個である。

初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
（保護者票　問 22 × 保護者票　問 27）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

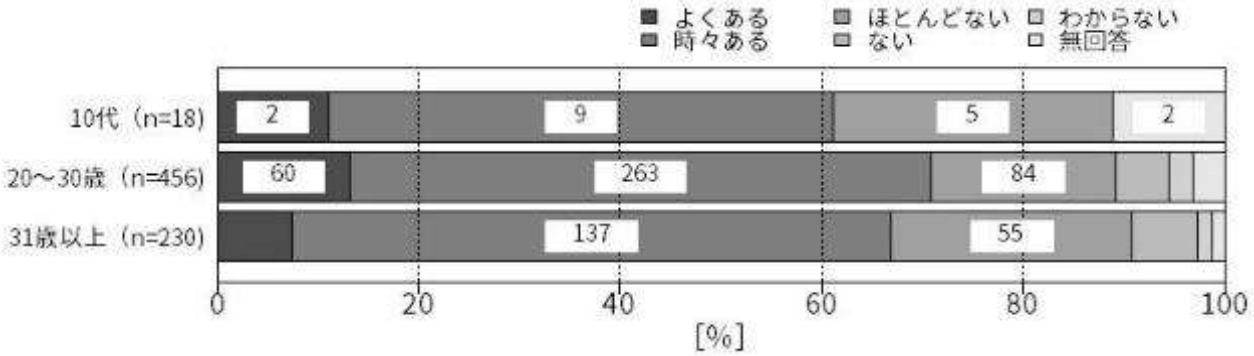
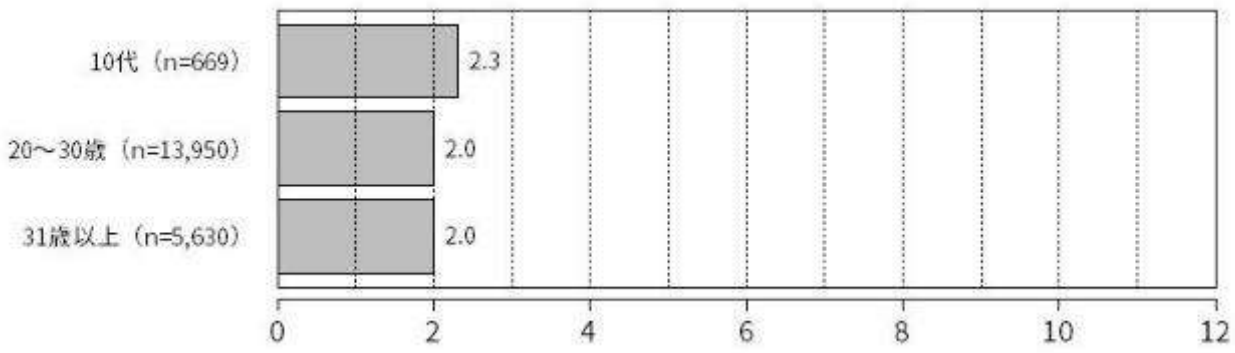


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10 代群は、「よくある」と回答した割合は 11.1%であった。。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 22 × 子ども票　問 24）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

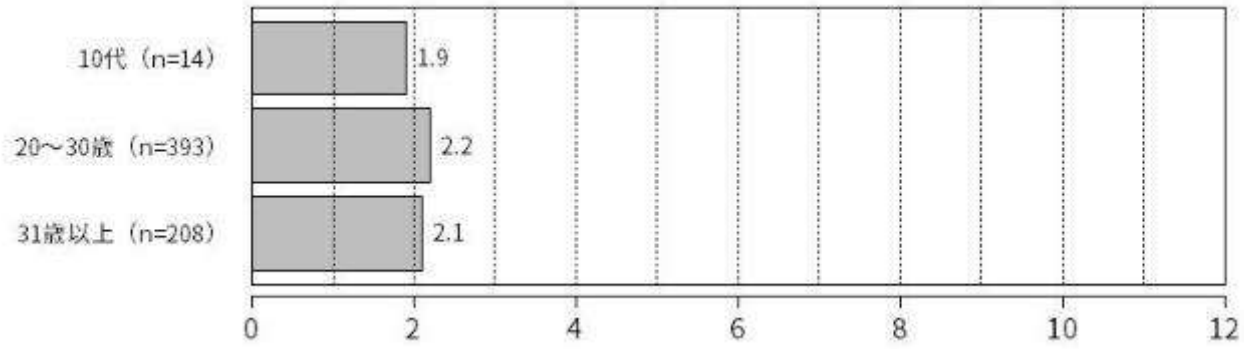
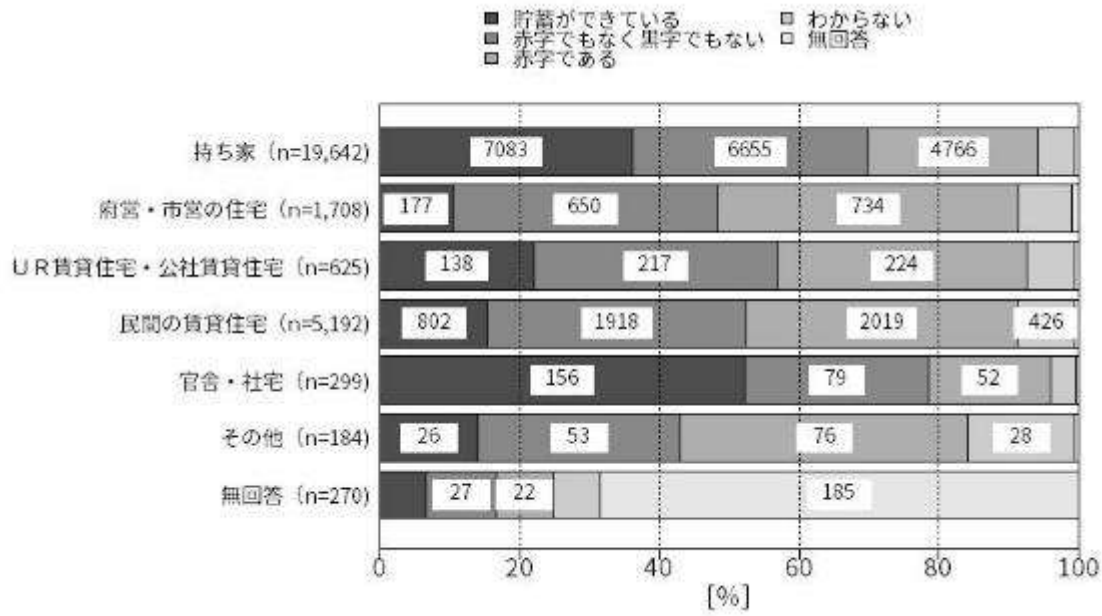


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10 代群では 1.9 個である。

住居別に見た、家計状況（保護者票　問 4 × 保護者票　問 6(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

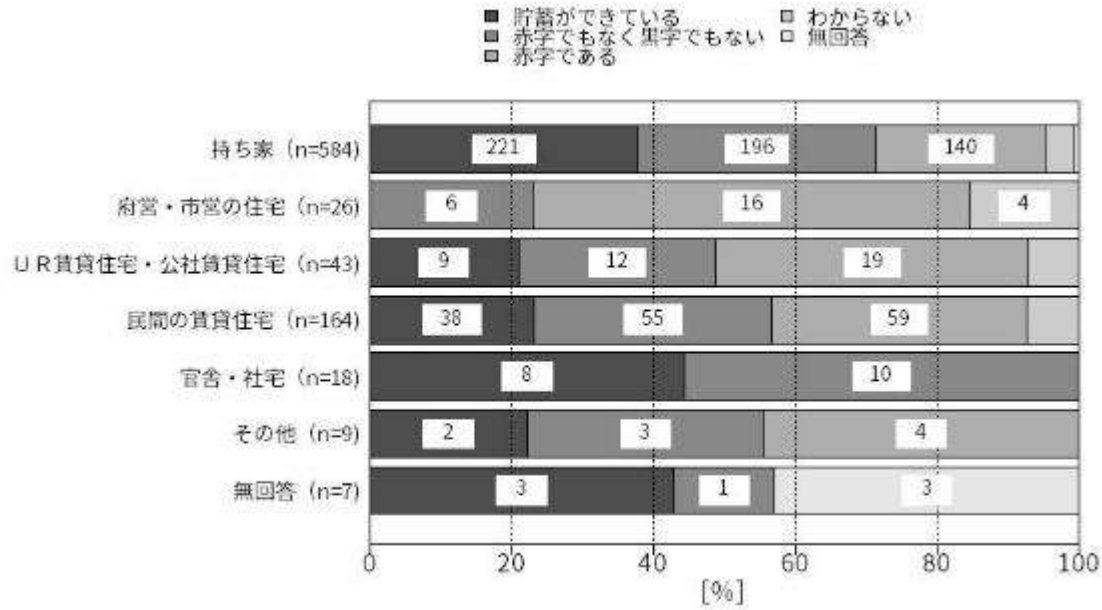
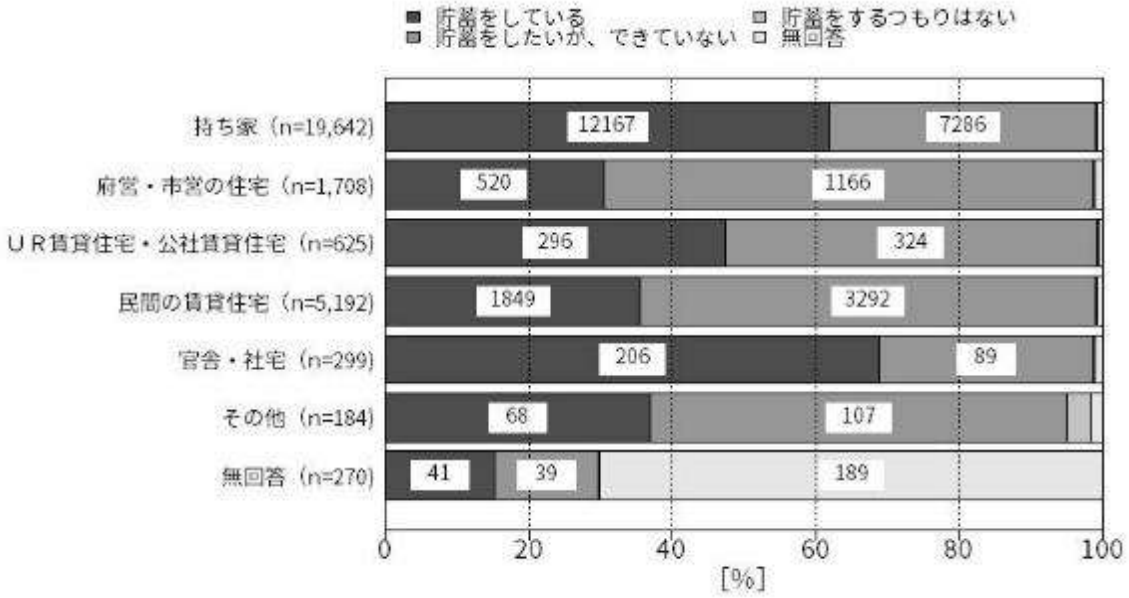


図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 61.5%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 44.2%、民間の賃貸住宅に住む人では 36.0%である。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は 24.0%である。

住居別に見た、子どものための貯蓄（保護者票　問 4 × 保護者票　問 6(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

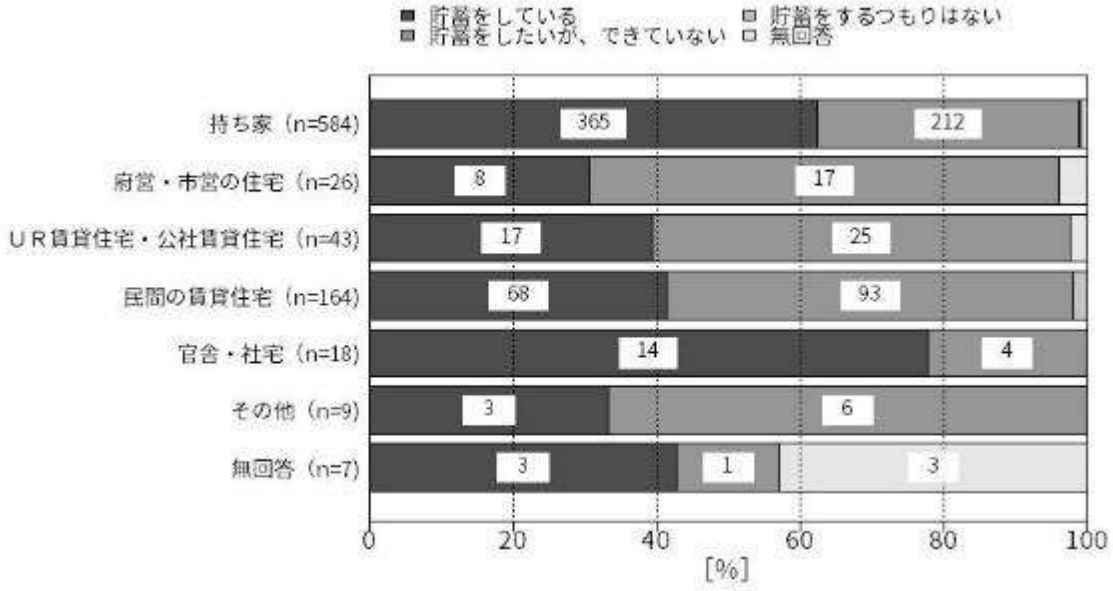


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 65.4%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 58.1%、民間の賃貸住宅に住む人では 56.7%であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 36.3%であった。

＜家庭状況に関する考察＞

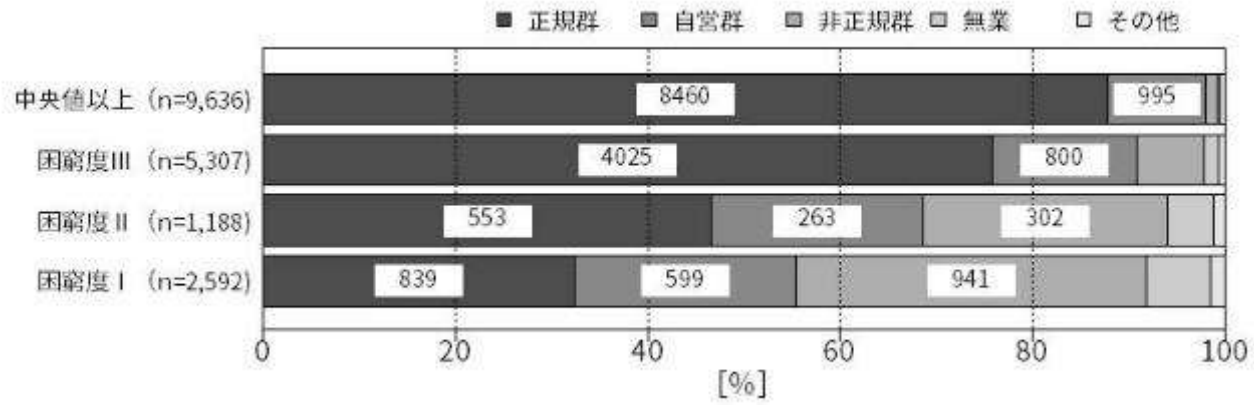
社会保障給付の利用状況について、とくに、困窮度と子どもに関連する制度を取り上げる。
就学援助費を「現在受けている」と回答した割合は、回答者全体で 21.2%（大阪市 20.0%）、困窮度Ⅰ群では、63.0%（大阪市 64.4%）となっている。生活保護の受給率を見ると、「受けている」と回答した割合は、全体で 1.3%（大阪市 3.4%、5 歳児 1.3%）、困窮度Ⅰ群では 3.0%（大阪市 9.6%、5 歳児 3.8%）であったが、困窮度Ⅱ群で 5.3%（大阪市 9.2%、5 歳児 0.0%）となっている。就学援助制度での受給率は市全体の数値と同様だが、生活保護率で全市との差が見られる。

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10 代で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。10 代での出産経験者は、「中卒」（38.9%、大阪市 19.0 %）または「高校中退」（11.1%、大阪市 31.3%）と回答した割合が高かった。中卒の高さが特徴的である。出産年齢別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10 代群は、他の群と比較して、「よくある」と回答した割合が高かった。
「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（61.5%）、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅（44.2%）、民間の賃貸住宅（36.0%）で高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は 24.0%であった。子どものために「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（65.4%）、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅（58.1%）、民間の賃貸住宅（56.7%）で高かった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 36.3%であった。

３－２．雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

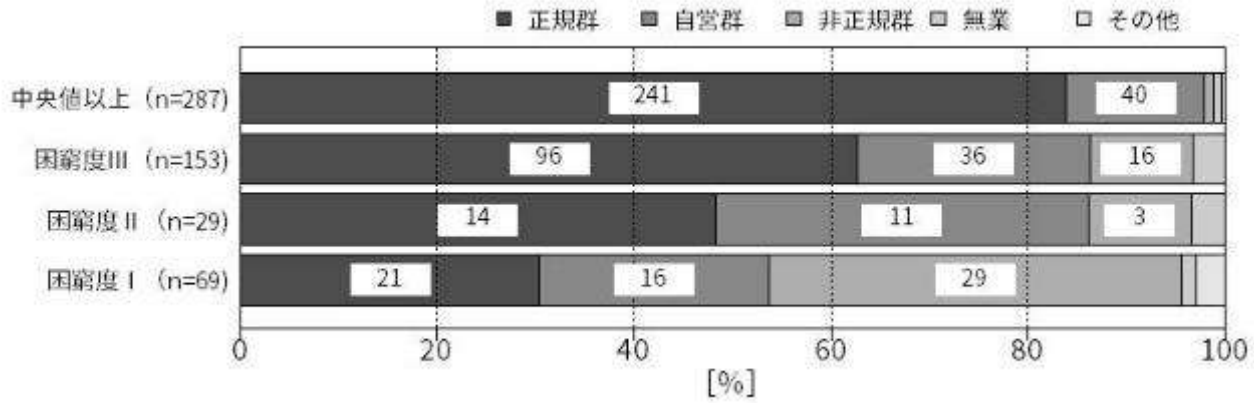


図 172．困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなる傾向にある。困窮度 I 群では「正規群」の割合が 30.4%、「非正規群」の割合が 42.0%となっている。

※就労形態は以下のように分類している。

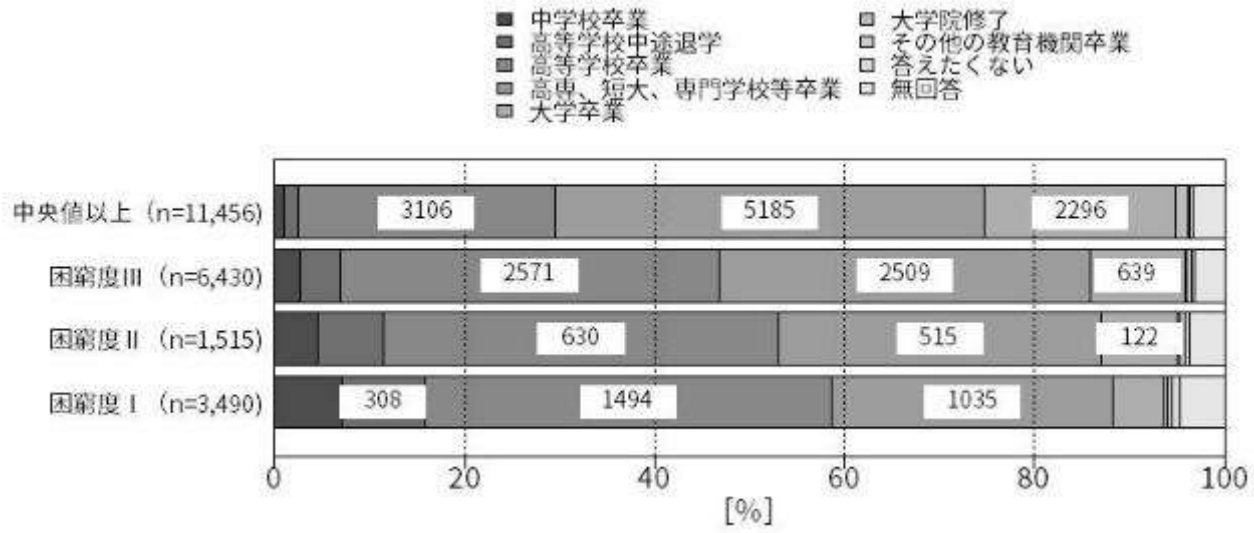
父母あるいは主たる生計者に正規が含まれれば「正規群」（問９選択肢１）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれれば「自営群」（問９選択肢４）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれれば「非正規群」（問９選

困窮度別に見た、母親の最終学歴（保護者票　問 8）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

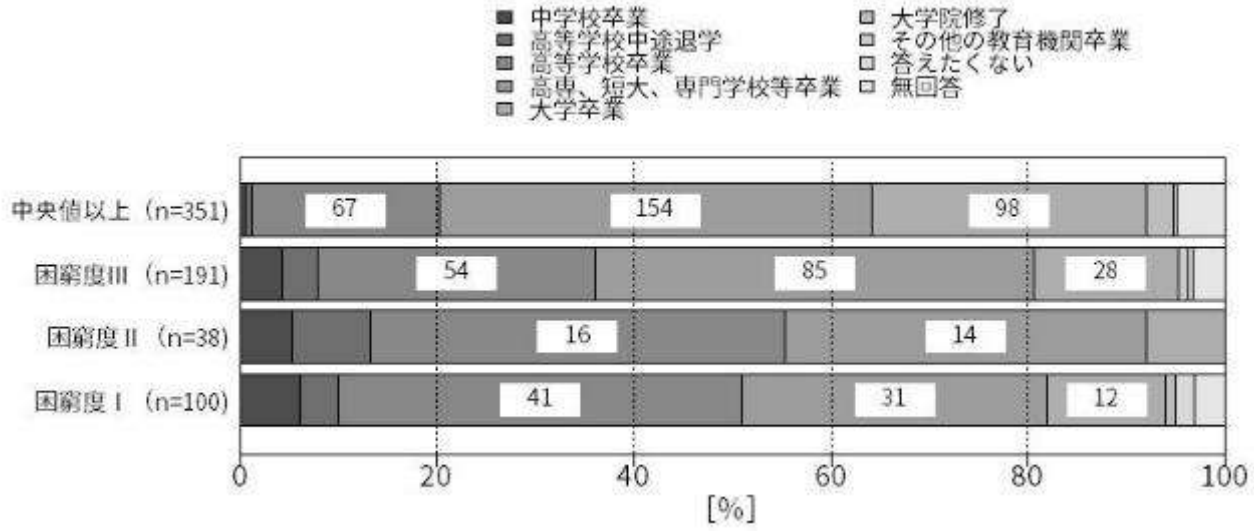
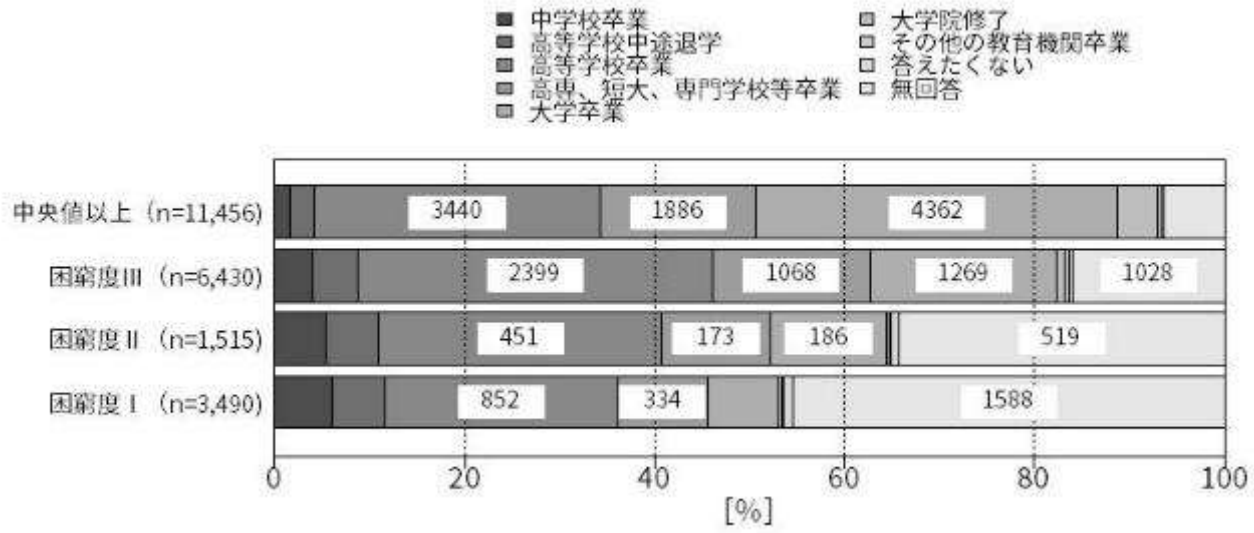


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度 I 群の「中学校卒業」は 6.0%、「高校学校中途退学」は 4.0%、「高等学校卒業」の割合が 41.0%であった

困窮度別に見た、父親の最終学歴（保護者票　問 8）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

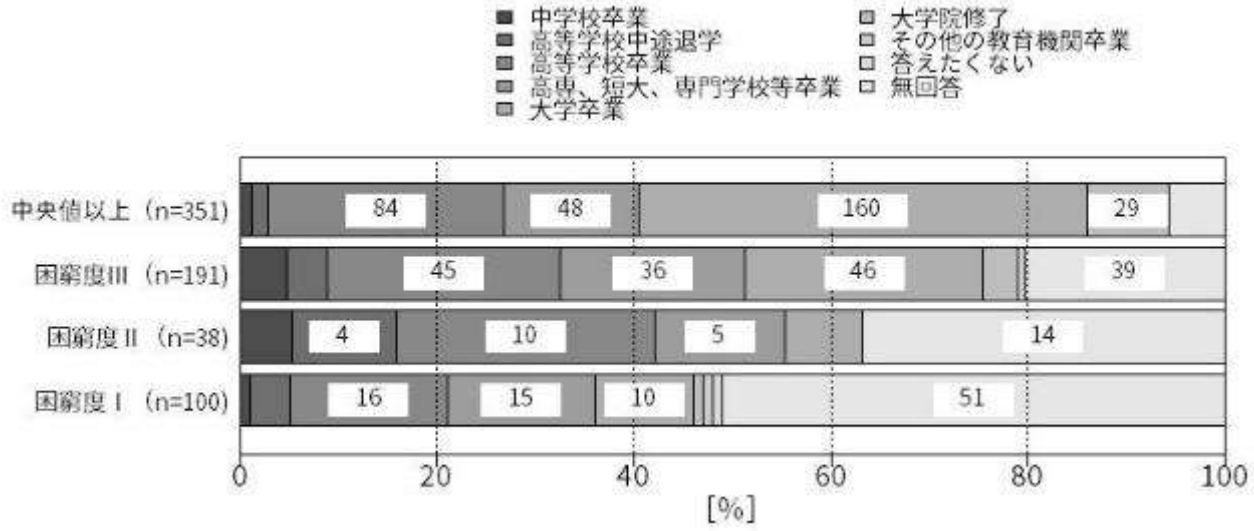
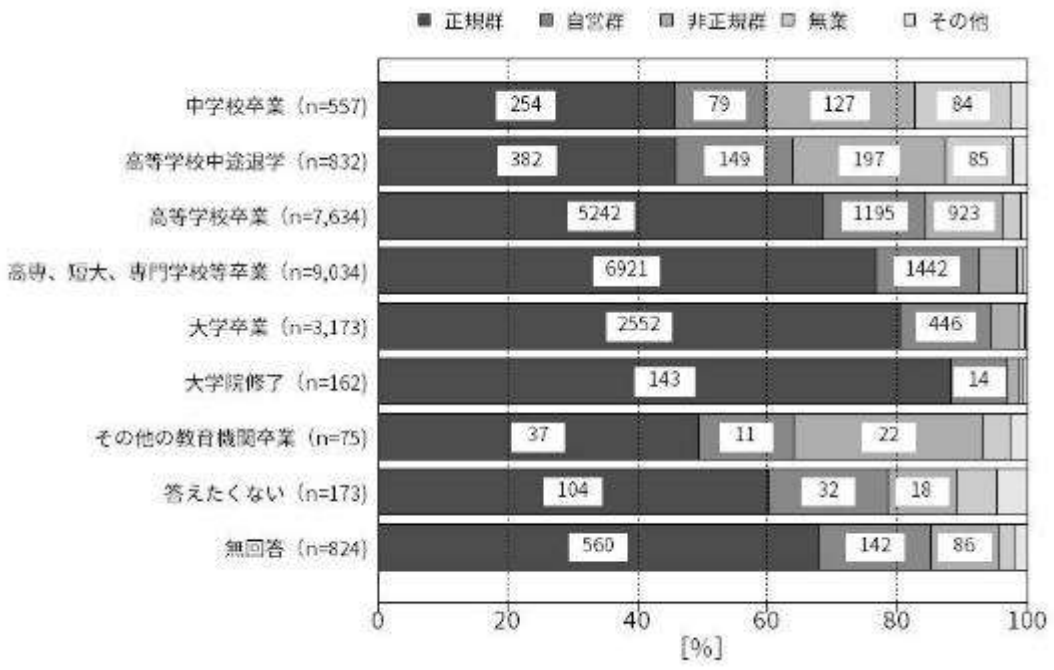


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ 1.0%、4.0%であった。また、困窮度Ⅰ群では無回答の割合も高い（51.0%）。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票　問 8 × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

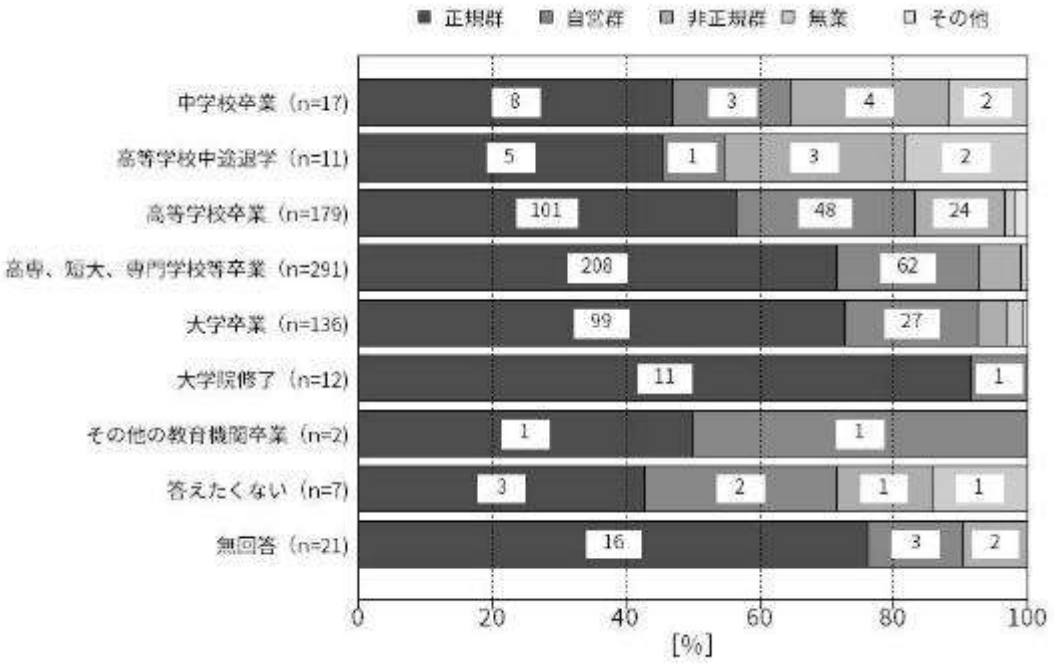
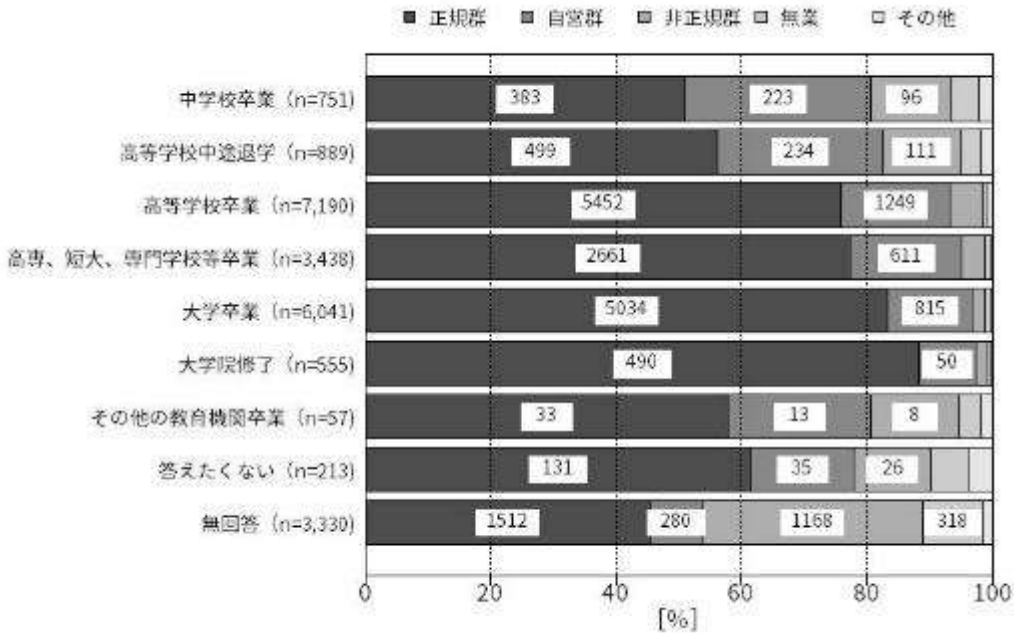


図 175.　母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票　問 8 × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

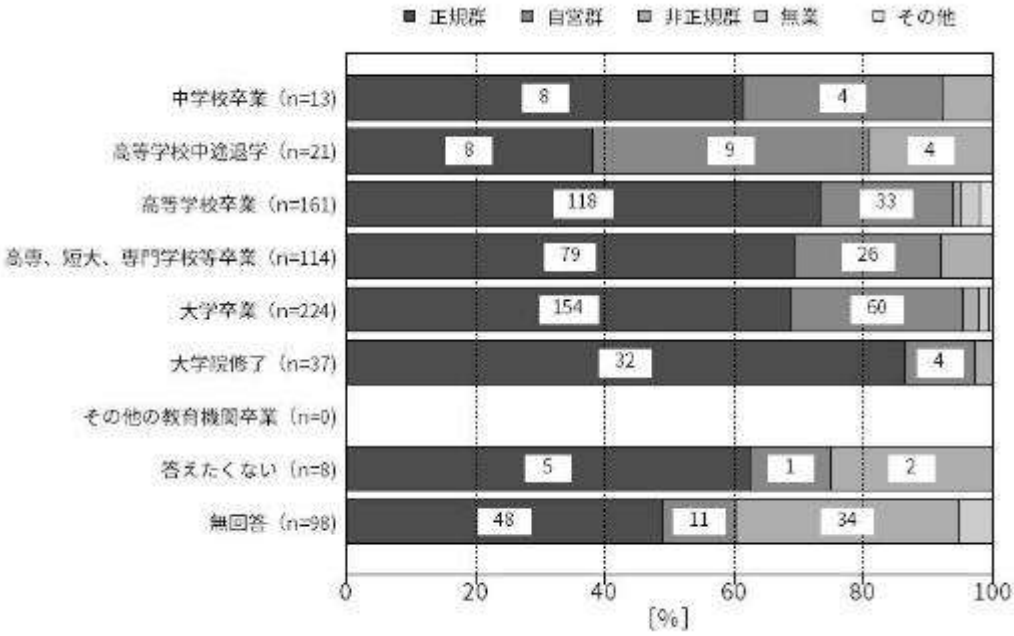
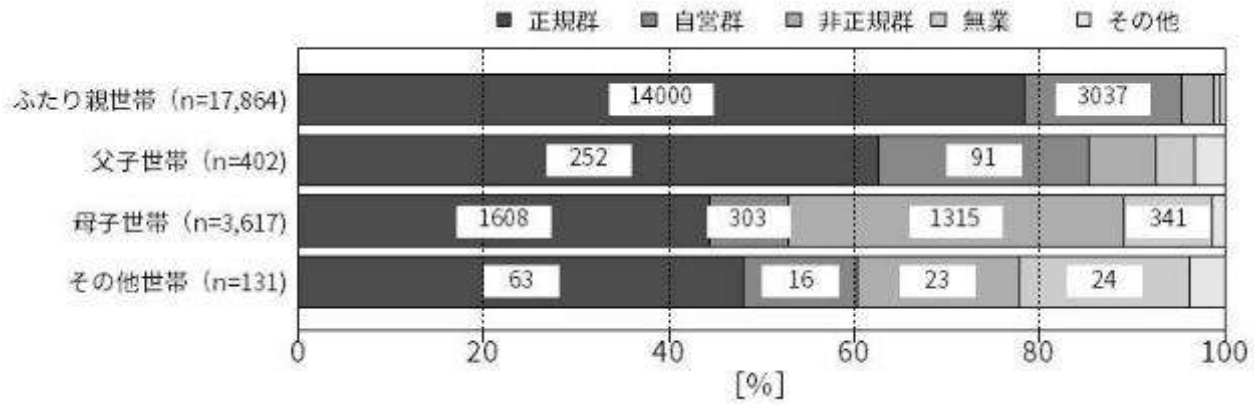


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

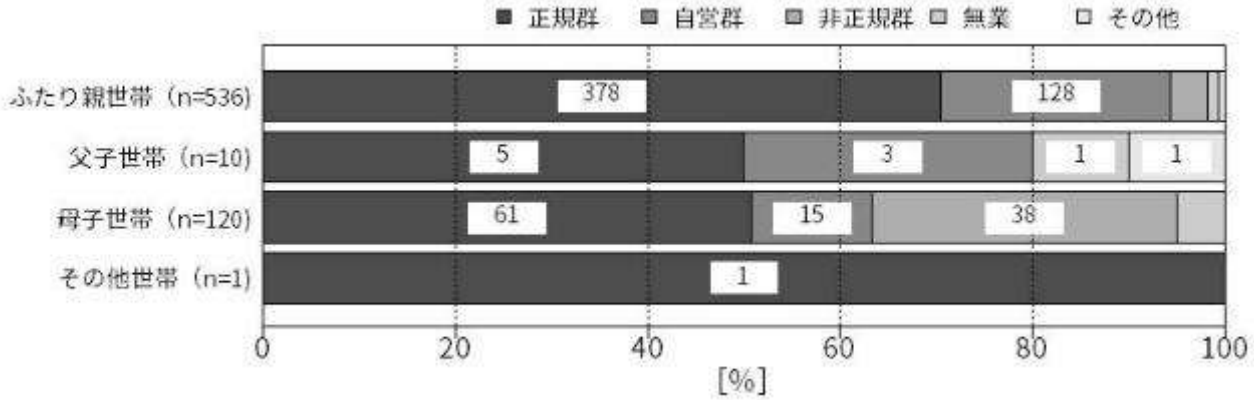
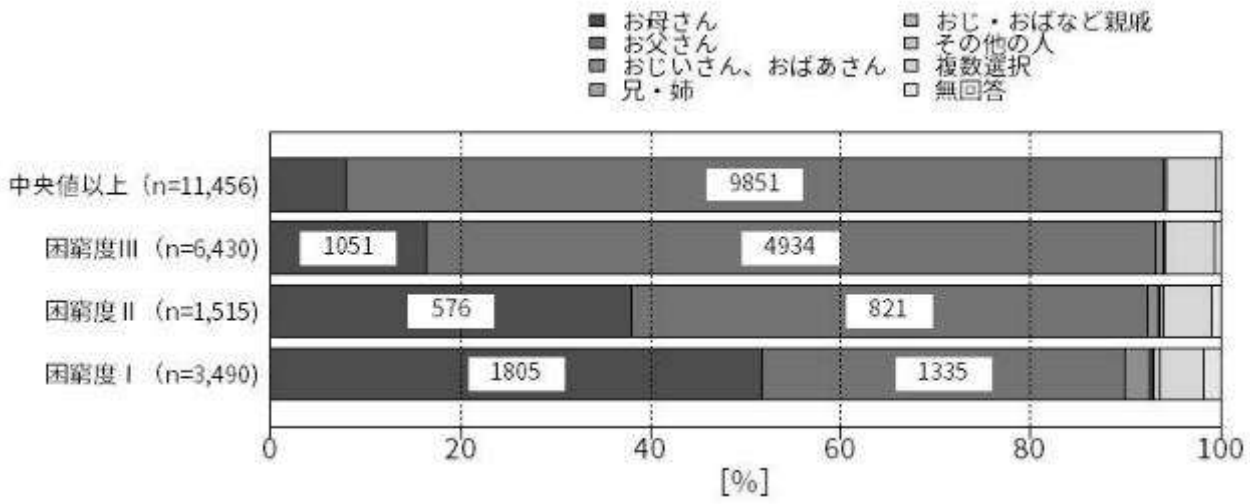


図 177.　世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が 70.5%であったが、「父子世帯」では 50.0%、「母子世帯」では 50.8%であった。「非正規群」は、「父子世帯」では該当なし、「母子世帯」では 31.7%となっている。

困窮度別に見た、生計の支えとなる人（保護者票　問 30(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

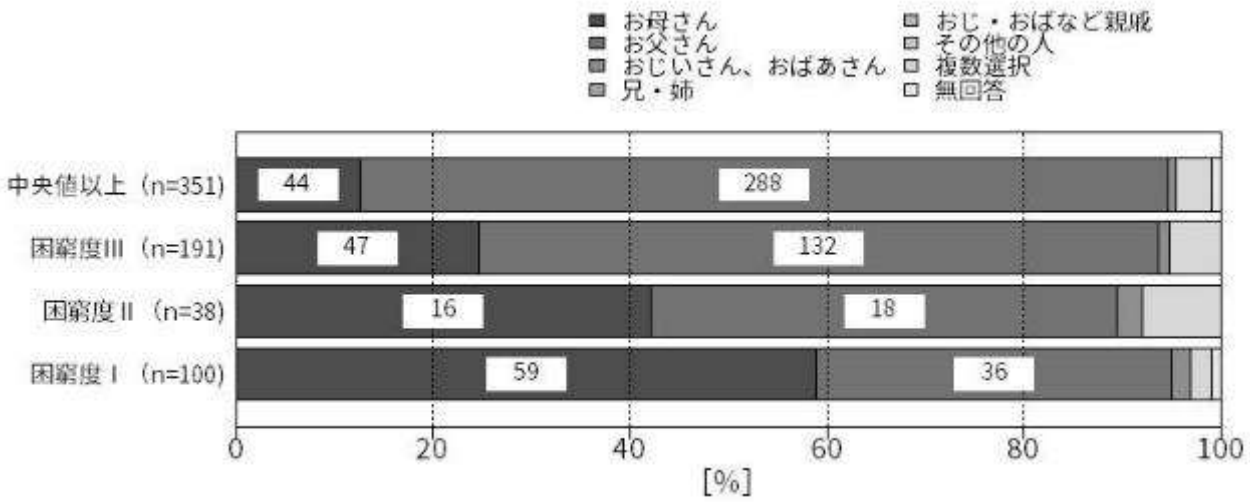
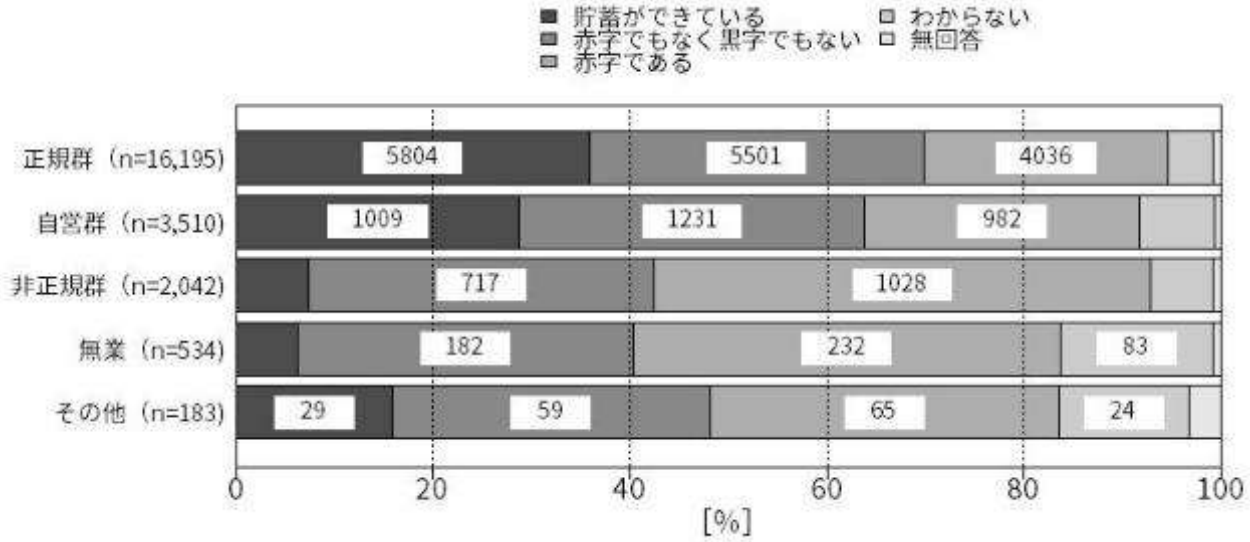


図 178.　困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 82.1%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなる。困窮度Ⅱ群では「お母さん」という回答は 42.1%、困窮度Ⅰ群では 59.0%であった。

就労状況別に見た、家計状況（保護者票　問 6(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

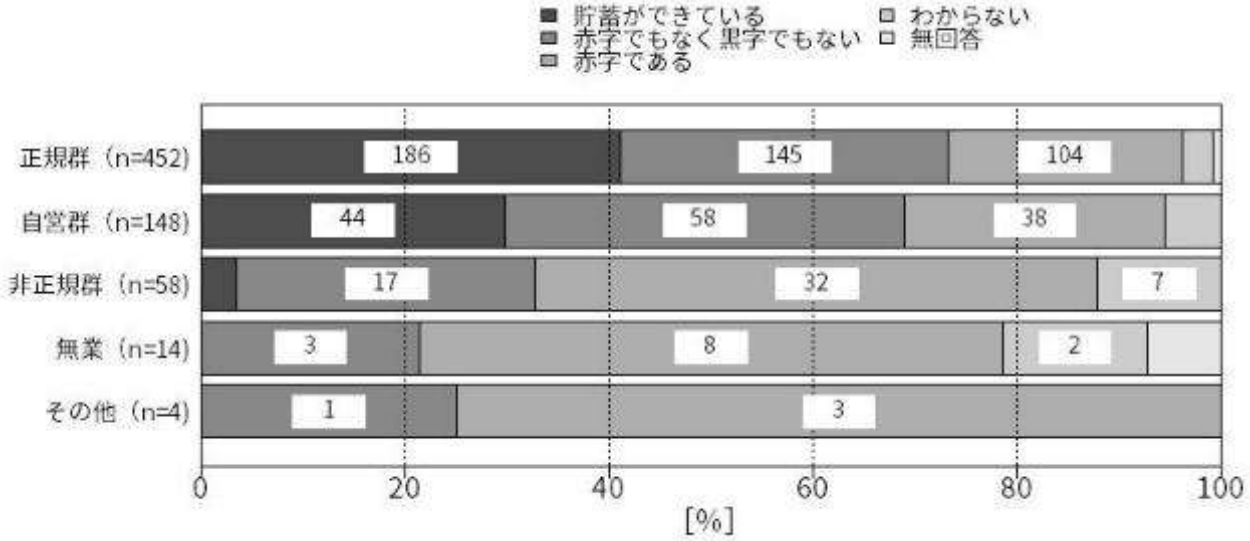


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では貯蓄ができている割合がそれぞれ、41.2%、29.7%であった。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が 55.2%であった。「赤字でもなく黒字でもない」群に大きな差は見られない。

＜雇用に関する考察＞

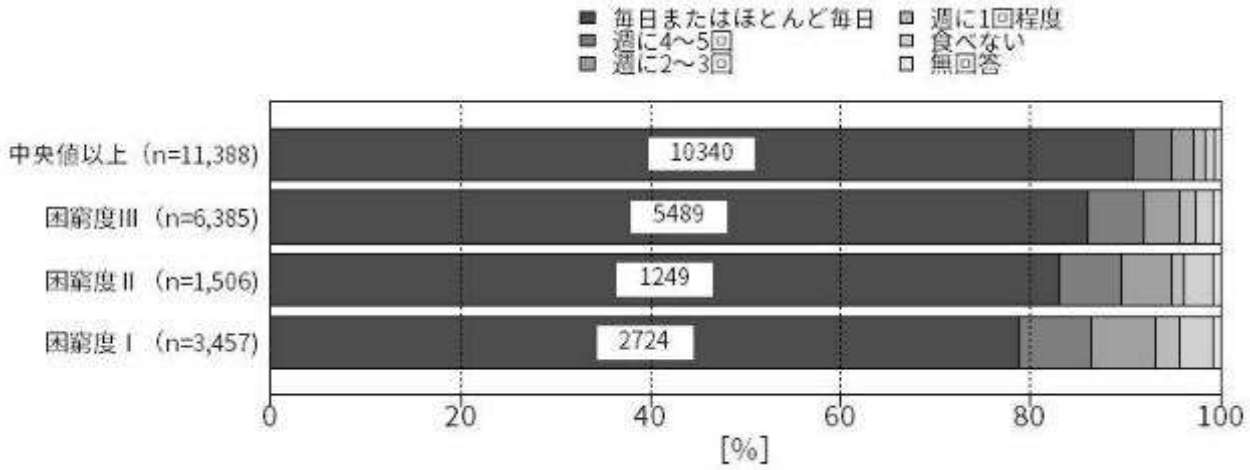
本調査では、雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが明らかになった。中央値以上の群では、84.0%が正規雇用を占める一方で、困窮度Ⅰの群では、30.4%であった。非正規雇用の割合は、中央値以上では1.0%であったにもかかわらず、困窮度Ⅰの群では42.0%であった。正規雇用であるにもかかわらず、困窮度Ⅰの群に属する世帯があるということは、ワーキングプアなどの問題を抱えている可能性もあることは留意しておきたい。

困窮度が高い群ほど、学歴が低いという結果も見られた。困窮度Ⅰの群では、大学卒である割合は父親で10.0%、母親で12.0%であったのに、中央値以上の群では45.6%と27.9%であった。中学卒、もしくは高校中退である割合は、中央値以上では父親が 2.8%、母親が 1.2%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では父親で5.0%、母親で10.0%が該当した。学歴が高い群ほど、正規雇用の割合が高かった。

雇用形態を世帯構成で分類した場合、母子世帯における非正規雇用の割合が31.7%と高い。困窮度Ⅰの群では、主たる生計維持者が母親である場合が59.0%となっている。雇用形態によって貯蓄状態にも差が見られた。正規雇用の41.2%は貯蓄ができていると回答した一方で、非正規群の回答は3.4%のみであった。

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票　問 5(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

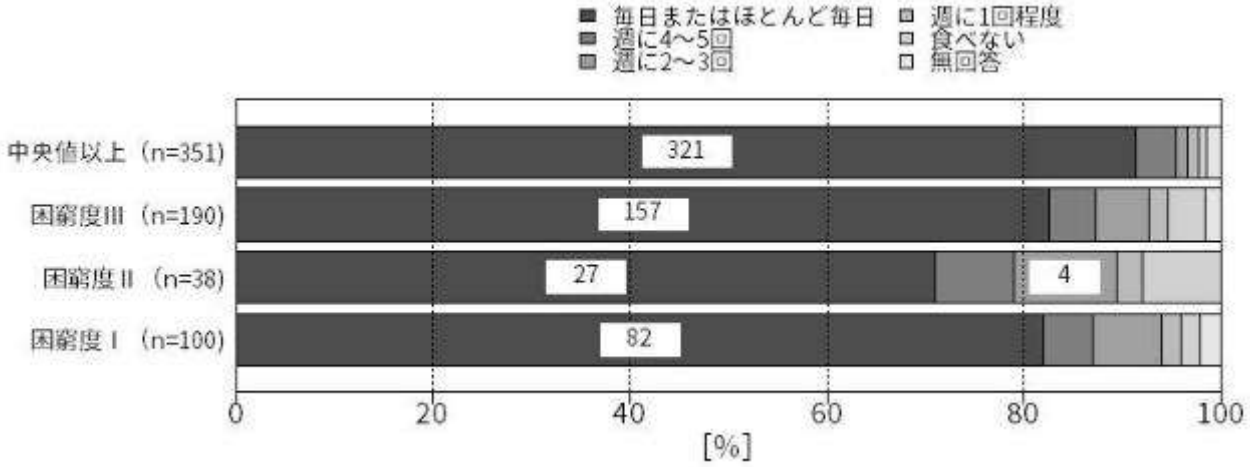
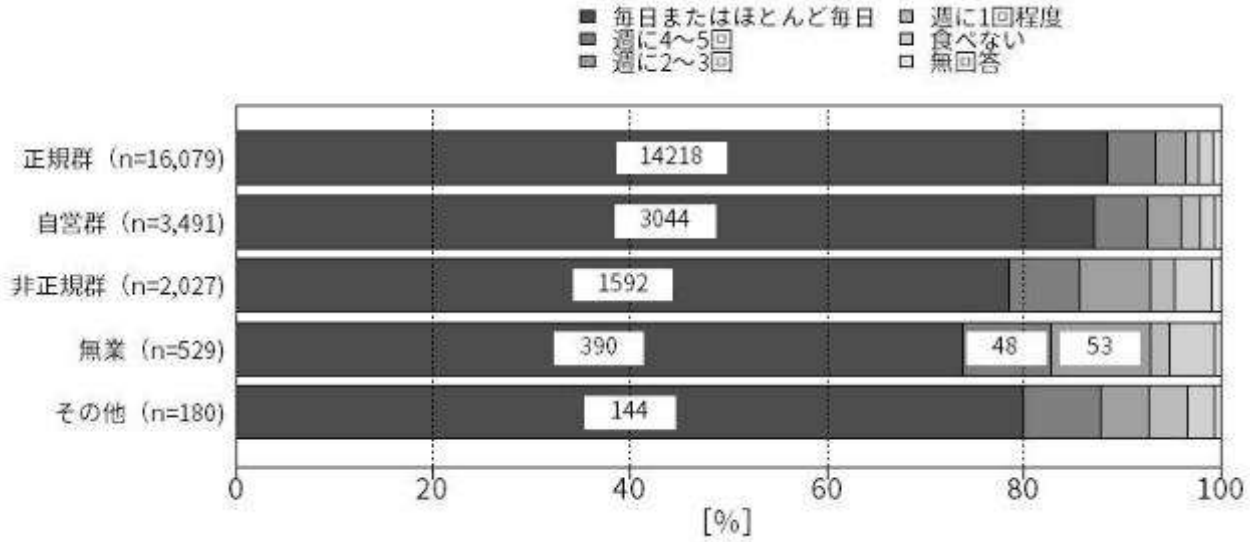


図 180．困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度 I 群では、2.0%が朝食を「食べない」と回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票　問 5(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

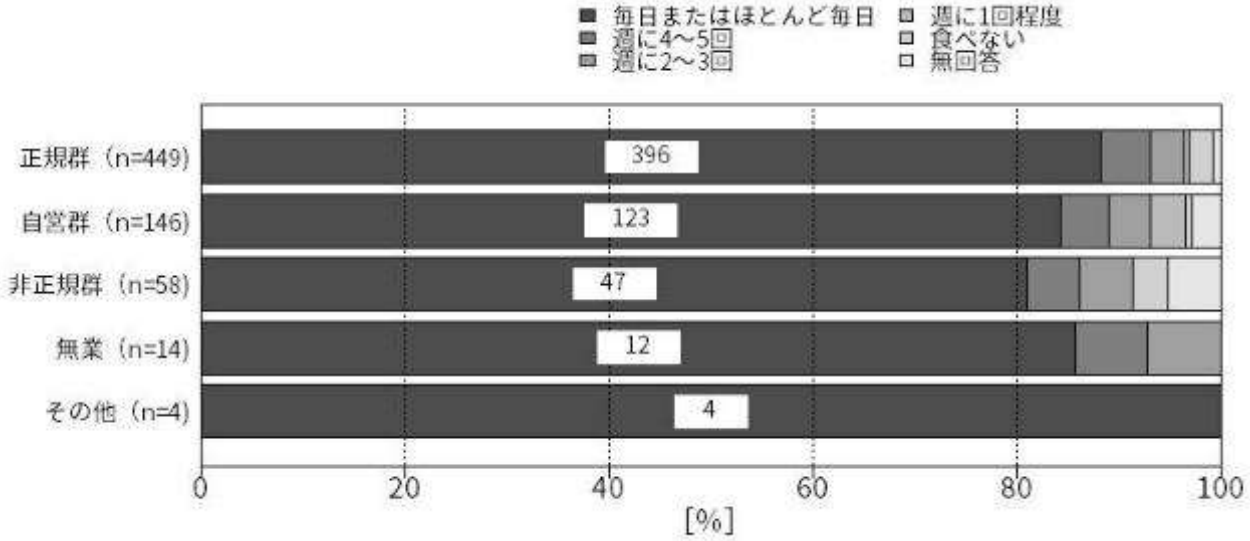
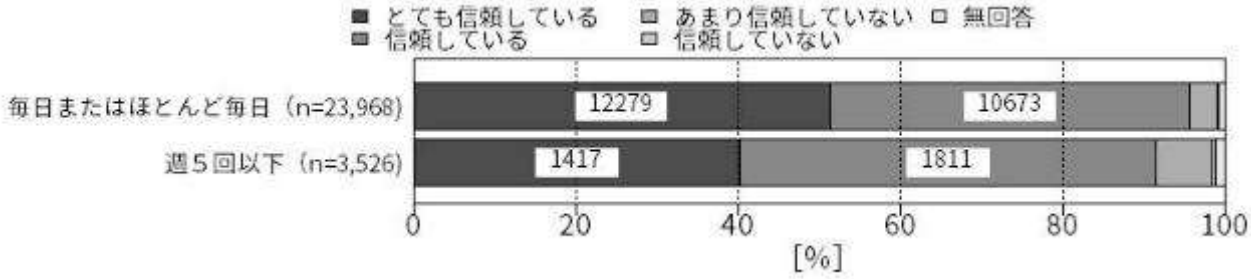


図 181．就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で 88.2%、「自営群」で 84.2%、「非正規群」で 81.0%、「無業」で 85.7%、「その他」で 100%であった。

朝食の頻度別に見た、 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 54.5%であったのに対し、「週 5 回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 48.1%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(2)）

＜大阪市 24 区＞

＜大阪市北区＞

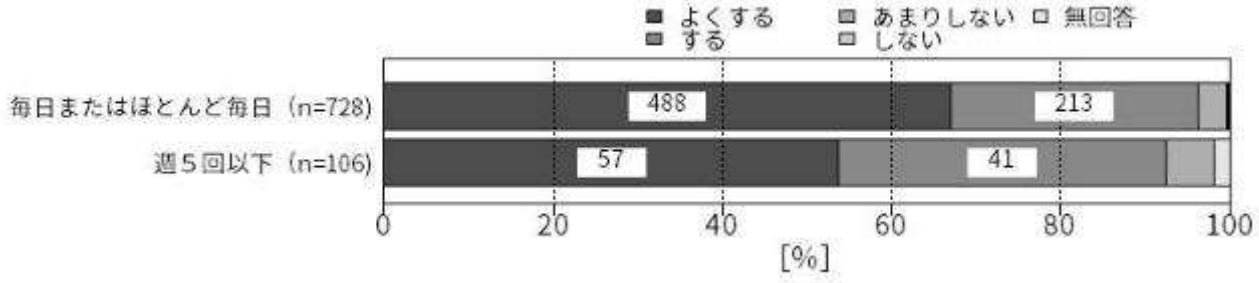
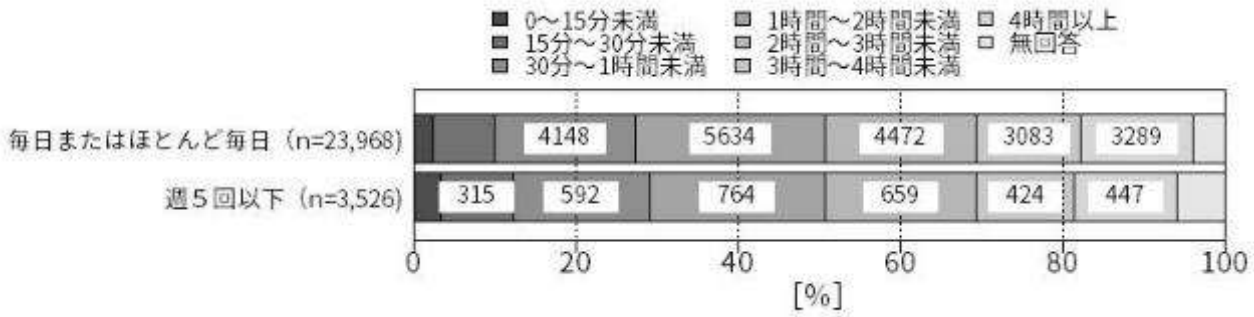


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 67.0%であり、「週 5 回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 53.8%である。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

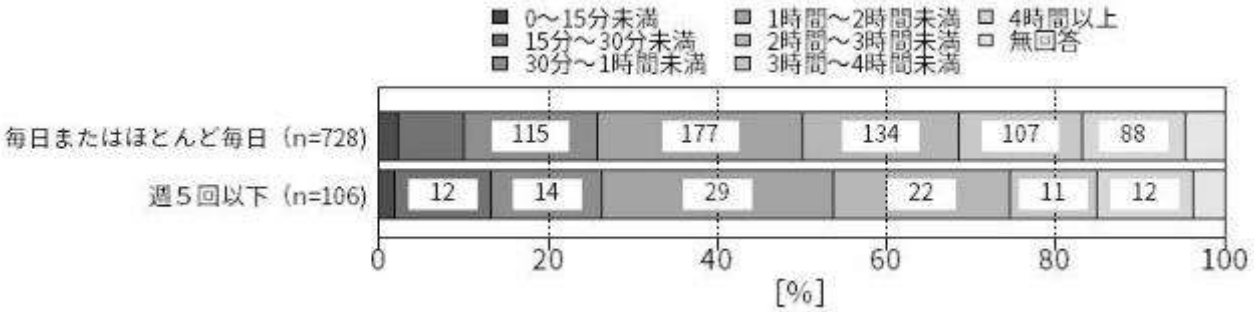
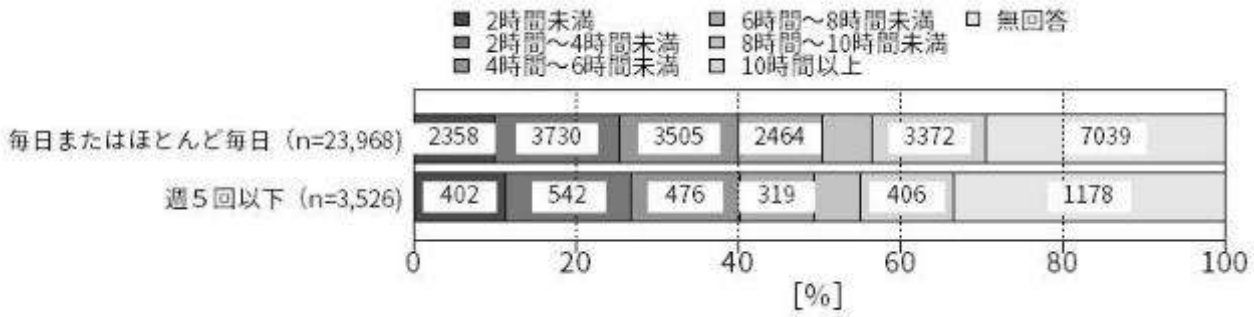


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「週 5 回以下」の人よりも平日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

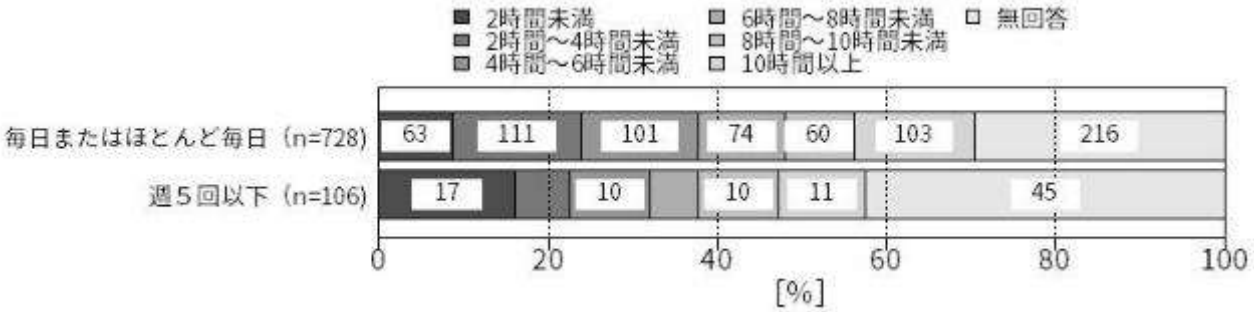
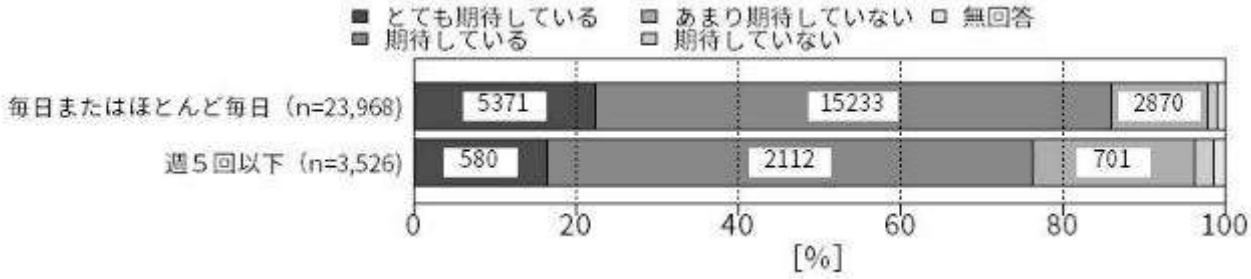


図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが、「週 5 回以下」の人よりも休日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

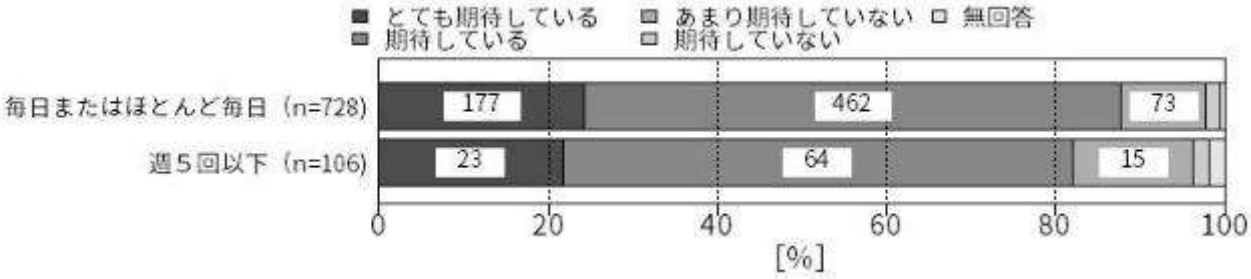


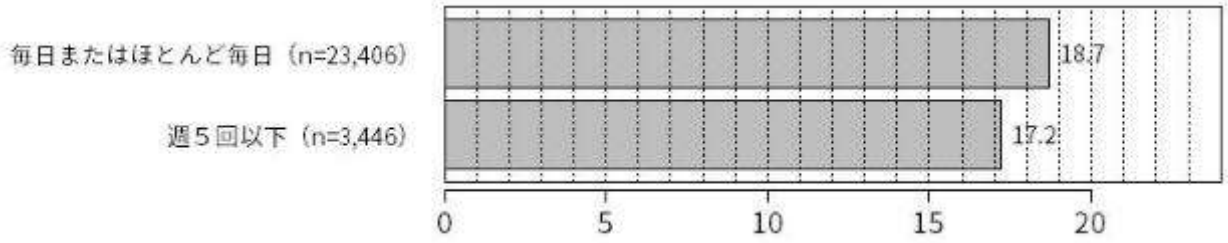
図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、87.8%であったのに対して、「週 5 回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて 82.1%であった。

朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー
（子ども票　問 5(1) × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市北区＞

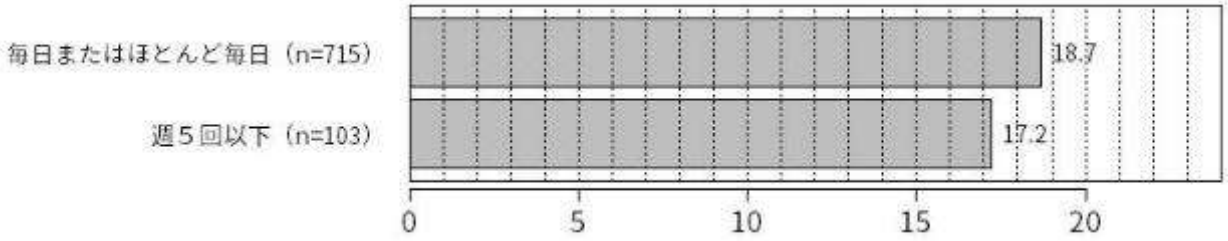


図 187. 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.7 点であるのに対して、「週 5 回以下」では、17.2 点である。